

宇美町
まちづくりに関する町民意識調査
報告書

令和 4 年 3 月

宇 美 町

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法、回収結果	1
(3)	本報告書の留意事項	1
2	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	職業	2
(4)	同居家族	3
(3)	居住地区	3
II	調査結果	4
1	まちへの愛着度と定住意向などについて	4
(1)	まちへの愛着度	4
(2)	宇美町の魅力	6
(3)	今後の定住意向	8
(4)	住みたくない主な理由	10
2	まちの現状と今後の取組について	12
(1)	まちの各施策に関する満足度	12
(2)	まちの各施策に関する重要度	22
(3)	まちの各施策に関する満足度と重要度の相関	31
(4)	今後のまちづくりの特色	34
3	日頃の行動や考えなどについて	36
(1)	宇美町は安全に暮らせるまちだと思うか	36
(2)	災害時の避難路・避難場所を知っているか	37
(3)	ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるか	38
(4)	健康増進のための取組をしているか	39
(5)	高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているか	40
(6)	安心して子どもを産み育てることができると思うか	41
(7)	この1年間に生涯学習活動をしたか	42
(8)	町内にある歴史文化遺産を誇りに思うか	44
(9)	大野城跡が日本遺産に認定されていることを知っているか	45
(10)	宇美町電子図書館を利用できることを知っているか	46
(11)	環境に配慮した生活をしているか	47
(12)	4R運動をしているか	48
(13)	自然と共生する魅力あるまちづくりが行われているか	49

(14) 情報を得るために使っている手段	50
(15) 今後の宇美町職員に特に求めるもの	52
(16) 公共施設の更新問題を知っているか	54
(17) 議会審議の動画を見たいか	55
4 地域コミュニティ・共働について	56
(1) 地域活動への参加状況と参加意向	56
(2) 今後参加したい地域活動等	58
(3) 今後参加しない理由	60
(4) 共働のまちづくりを進めるために必要なこと	62
5 幸福実感について	64
(1) 幸福実感について	64
資料：調査票	67

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、第7次宇美町総合計画（令和5年度～令和12年度）の策定にあたって、まちへの愛着度や今後の定住意向をはじめ、まちの各施策に関する満足度と重要度、今後のまちづくりの特色など、町民の意識やニーズを把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項目	町民	中学生	職員
名称	宇美町まちづくりに関する町民意識調査	宇美町まちづくりに関する中学生アンケート調査	宇美町まちづくりに関する職員意識調査
調査対象	18歳以上の町民	町内の中学2年生	町職員
配布数	3,000	394	197
抽出法等	無作為抽出	全数調査	全数調査
調査方法	郵送法	学校への依頼と郵送法の併用	町役場での配布・回収
調査時期	令和3年10月	令和3年10月	令和3年10月
有効回収数	1,441	330	191
有効回収率	48.0%	83.8%	97.0%

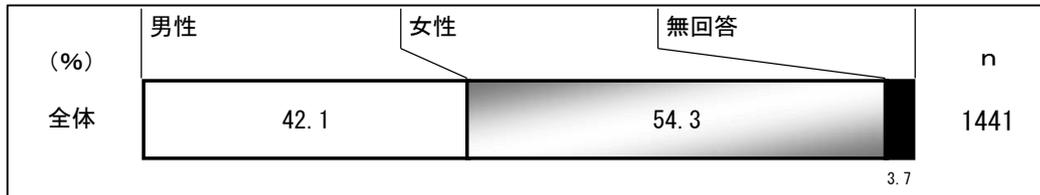
(3) 本報告書の留意事項

- ① 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、総数と内訳の合計は必ずしも一致しません。
- ② 基数となるべき実数（回答者数）は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③ 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問です。従って、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④ 10代の回答者数が22人（1.5%）と少数であったため、調査結果（P4以降）は、20代（95人）とあわせて「10・20代」として分析しています。
- ⑤ 前回の調査（宇美町まちづくりに関する町民意識調査）の結果と比較している部分がありますが、前回は、平成29年7月に18歳以上の町民1,000人を対象に実施したものであり、有効回収数は496、有効回収率は49.6%となっています。

2 回答者の属性

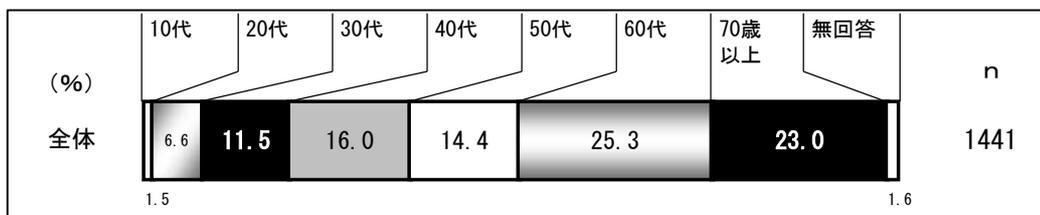
(1) 性別

回答者の性別構成は、「女性」が54.3%、「男性」が42.1%となっています。



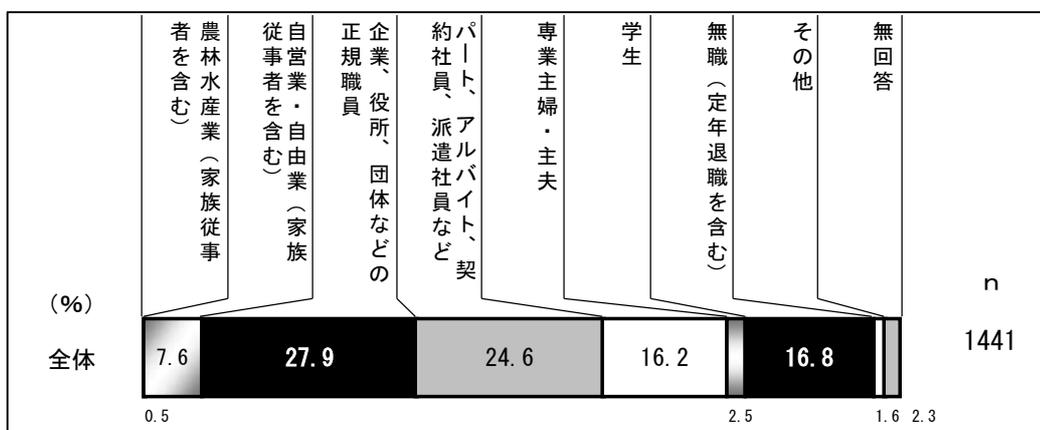
(2) 年齢

回答者の年齢は、「60代」(25.3%)、「70歳以上」(23.0%)、「40代」(16.0%)、「50代」(14.4%)、「30代」(11.5%)、「20代」(6.6%)、「10代」(1.5%)の順となっています。



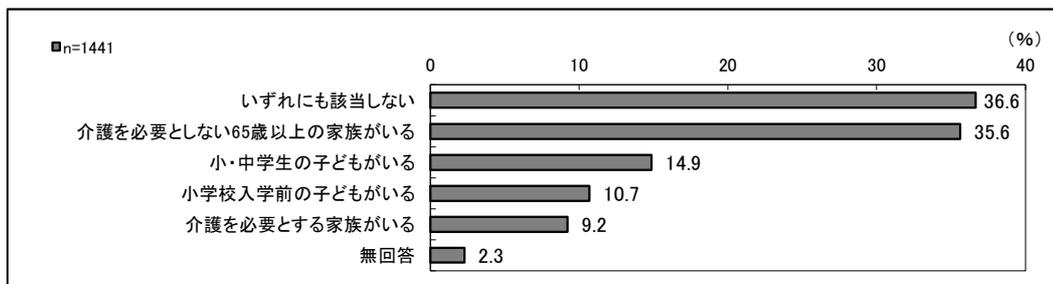
(3) 職業

回答者の職業は、「企業、役所、団体などの正規職員」(27.9%)、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員など」(24.6%)、「無職(定年退職を含む)」(16.8%)、「専業主婦・主夫」(16.2%)、「学生」(2.5%)、「その他」(1.6%)、「無回答」(2.3%)の順となっています。



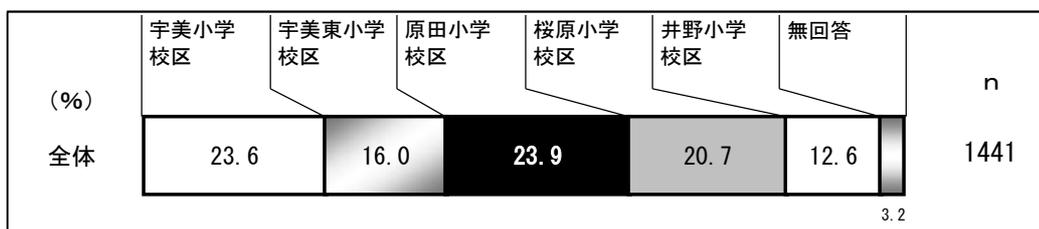
(4) 同居家族

回答者の同居家族については、「いずれにも該当しない」(36.6%)、「介護を必要としない65歳以上の家族がいる」(35.6%)、「小・中学生の子どもがいる」(14.9%)、「小学校入学前の子どもがいる」(10.7%)、「介護を必要とする家族がいる」(9.2%)の順となっています(複数回答)。



(3) 居住地区

回答者の居住地区は、「原田小学校区」(23.9%)、「宇美小学校区」(23.6%)、「桜原小学校区」(20.7%)、「宇美東小学校区」(16.0%)、「井野小学校区」(12.6%)の順となっています。



Ⅱ 調査結果

1 まちへの愛着度と定住意向などについて

(1) まちへの愛着度

問2 あなたは、宇美町に対して「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。

- “愛着を感じている”が61.7%、“愛着を感じていない”が9.0%。

町民のまちに対する愛着度を把握するため、「とても愛着を感じている」、「どちらか」というと愛着を感じている」、「どちらともいえない」、「あまり愛着を感じていない」、「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「どちらか」というと愛着を感じている」と答えた人が44.4%で最も多く、これと「とても愛着を感じている」(17.3%)をあわせた“愛着を感じている”という人が61.7%となっています。

これに対し、“愛着を感じていない”という人(「あまり愛着を感じていない」6.5%と「愛着を感じていない」2.6%の合計)は9.0%で、多くの町民が本町に愛着を感じていることがうかがえます。[図表1参照]

前回の調査結果と比較すると、“愛着を感じている”という率が3ポイント低下しているものの、大きな差はありません。

中学生の調査結果(宇美町が好きか)と比較すると、“好きだ(愛着を感じている)”という率はほぼ同様でした。[下記【比較】参照]

属性別で“愛着を感じている”という率をみると、性別では、男性が63.7%、女性が62.4%と、大きな違いはみられません。

年齢別では、高い順に30代(69.9%)、50代(63.9%)、70歳以上(63.6%)、60代(62.7%)、40代(58.3%)、10・20代(55.6%)で、30代で高く、10・20代と40代で低くなっており、特に、30代の愛着が最も強いことが本町の特徴としてあげられます。[図表1参照]

【比較】

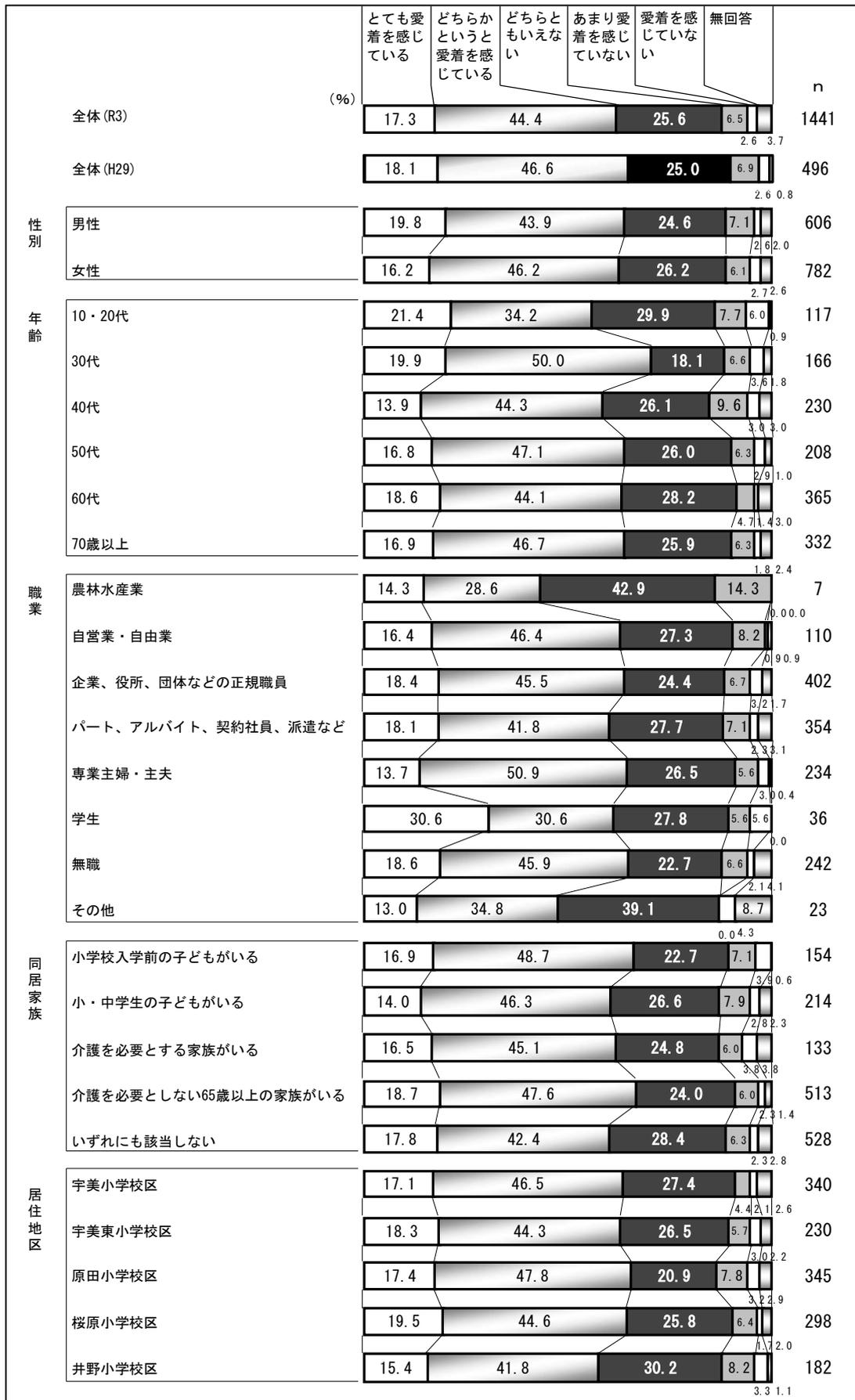
前回の調査結果

“愛着を感じている”が64.7%、“愛着を感じていない”が9.5%。

中学生の調査結果

“好きだ”が63.0%、“好きではない”が8.8%。

図表1 まちへの愛着度（全体・性別・年齢・職業・同居家族・居住地区）



(2) 宇美町の魅力

問3 あなたは、宇美町のどのようなところが魅力だと思いますか。【複数回答】

- 「自然環境が豊かである」が他を引き離して第1位、次いで「買物の便がよい」、「住みやすい住宅地がある」の順。

宇美町の魅力については、「自然環境が豊かである」(61.8%)が他を引き離して第1位、「買物の便がよい」(25.2%)が第2位、「住みやすい住宅地がある」(22.1%)が第3位、続いて「歴史的・文化的資源が豊かである」(19.8%)、「生活環境施設が整っている」(17.4%)、「道路・交通の便がよい」(16.0%)の順となっており、“自然の豊かさ”をはじめ、“買物の便のよさ”や“住宅地の存在”、“歴史的資源の豊かさ”、“整備された生活環境施設”、“道路・交通の便のよさ”を本町の魅力と感じる人が多くなっています。[図表2参照]

前回の調査結果(選択肢はやや異なる)と比較すると、前回の選択肢にはなかった「住みやすい住宅地がある」を除くと、上位回答はほぼ同様に、大きな変化はみられません。

中学生の調査結果と比較すると、「自然環境が豊かである」が第1位であることに変わりはありませんが、第2位をみると、町民で第2位の「買物の便がよい」は中学生では第7位で、中学生では「人がやさしい」(町民では第7位)が第2位となっています。

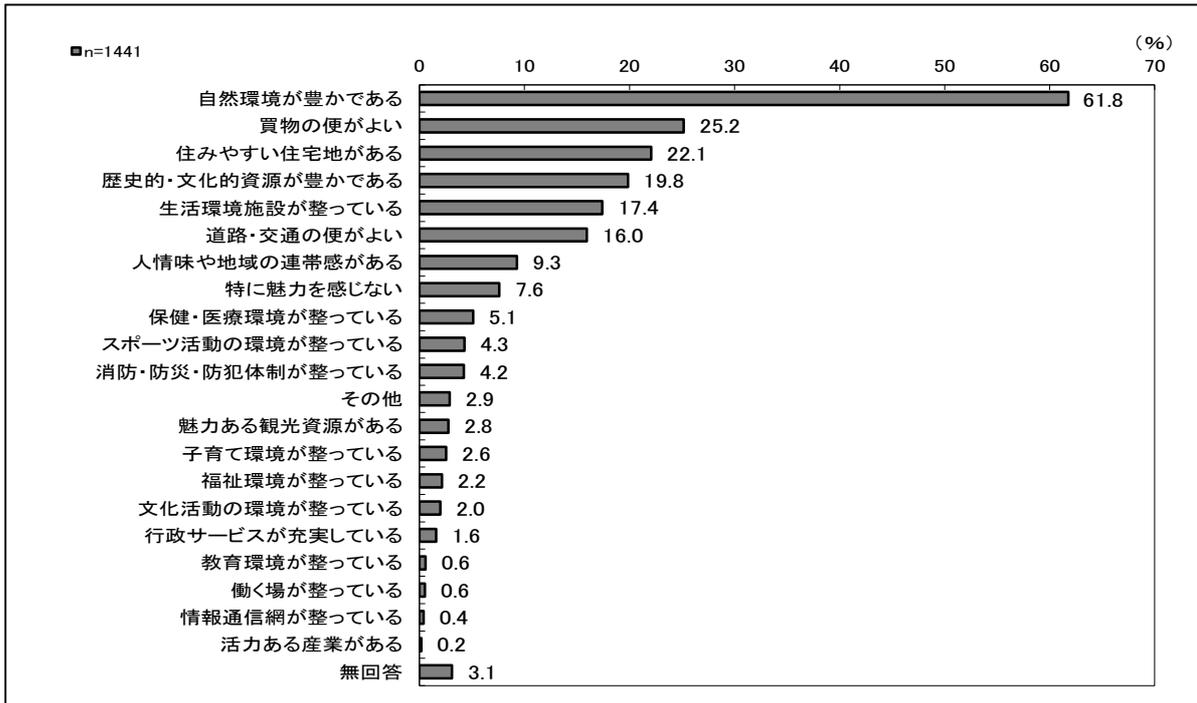
職員の調査結果と比較すると、やはり「自然環境が豊かである」が第1位であることに変わりはありませんが、第2位をみると、町民で第2位の「買物の便がよい」は職員では第13位で、職員では「歴史的・文化的資源が豊かである」(町民では第4位)が以下を引き離して第2位となっており、職員では、“自然の豊かさ”に次いで、“歴史資源の豊かさ”を町の魅力と考える人が多くなっています。[下記【比較】参照]

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「自然環境が豊かである」が第1位、ほとんどの属性で「買物の便がよい」あるいは「住みやすい住宅地がある」が第2位となっていますが、50代では「歴史的・文化的資源が豊かである」(22.6%)が第2位(「住みやすい住宅地がある」と同率2位)、70歳以上や宇美東小学校区では「生活環境施設が整っている」(32.2%・21.3%)が第2位となるなど、年齢や居住地区によって若干の違いがみられます。[図表3参照]

【比較】

前回の調査結果	「自然環境が豊かである」、「買物の便がよい」、「生活環境施設が整っている」の順。
中学生の調査結果	「自然が豊かだ」、「人がやさしい」、「歴史的なものが多い」の順。
職員の調査結果	「自然環境が豊かである」、「歴史的・文化的資源が豊かである」、「生活環境施設が整っている」・「魅力ある観光資源がある」の順。

図表2 宇美町の魅力（全体／複数回答）



図表3 宇美町の魅力（全体・性別・年齢・居住地区－上位3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自然環境が豊かである 61.8	買物の便がよい 25.2	住みやすい住宅地がある 22.1
性別	男性	自然環境が豊かである 60.9	住みやすい住宅地がある 26.1	買物の便がよい 24.4
	女性	自然環境が豊かである 65.1	買物の便がよい 26.6	歴史的・文化的資源が豊かである 21.7
年齢	10・20代	自然環境が豊かである 57.3	住みやすい住宅地がある／買物の便がよい 21.4	
	30代	自然環境が豊かである 72.9	住みやすい住宅地がある 26.5	買物の便がよい 25.9
	40代	自然環境が豊かである 62.6	買物の便がよい 20.4	歴史的・文化的資源が豊かである 18.7
	50代	自然環境が豊かである 65.4	住みやすい住宅地がある／歴史的・文化的資源が豊かである 22.6	
	60代	自然環境が豊かである 64.4	買物の便がよい 28.5	住みやすい住宅地がある 24.1
	70歳以上	自然環境が豊かである 56.0	生活環境施設が整っている 32.2	買物の便がよい 30.1
居住地区	宇美小学校区	自然環境が豊かである 56.8	買物の便がよい 31.8	道路・交通の便がよい 25.9
	宇美東小学校区	自然環境が豊かである 73.9	生活環境施設が整っている 21.3	歴史的・文化的資源が豊かである 18.7
	原田小学校区	自然環境が豊かである 66.4	買物の便がよい 24.3	住みやすい住宅地がある 22.6
	桜原小学校区	自然環境が豊かである 61.4	買物の便がよい 32.9	住みやすい住宅地がある 25.5
	井野小学校区	自然環境が豊かである 58.8	住みやすい住宅地がある 29.1	歴史的・文化的資源が豊かである 25.8

(3) 今後の定住意向

問4 あなたは、これからも宇美町に住みたいと思いますか。

● “住みたい”が62.1%、“住みたくない”が10.3%。

町民の今後の定住意向を探るため、「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない（できれば町外へ引越したい）」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「住みたい」と答えた人が32.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば住みたい」と答えた人が29.5%で続き、これらをあわせた“住みたい”という人が62.1%となっています。

これに対し、“住みたくない”という人（「どちらかといえば住みたくない」7.8%と「住みたくない（できれば町外へ引越したい）」2.4%の合計）は10.3%で、多くの町民が本町に定住したいと考えていることがうかがえます。[図表4参照]

前回の調査結果と比較すると、“住みたい”という率は同様であり、定住意向は変わっていないことがうかがえます。

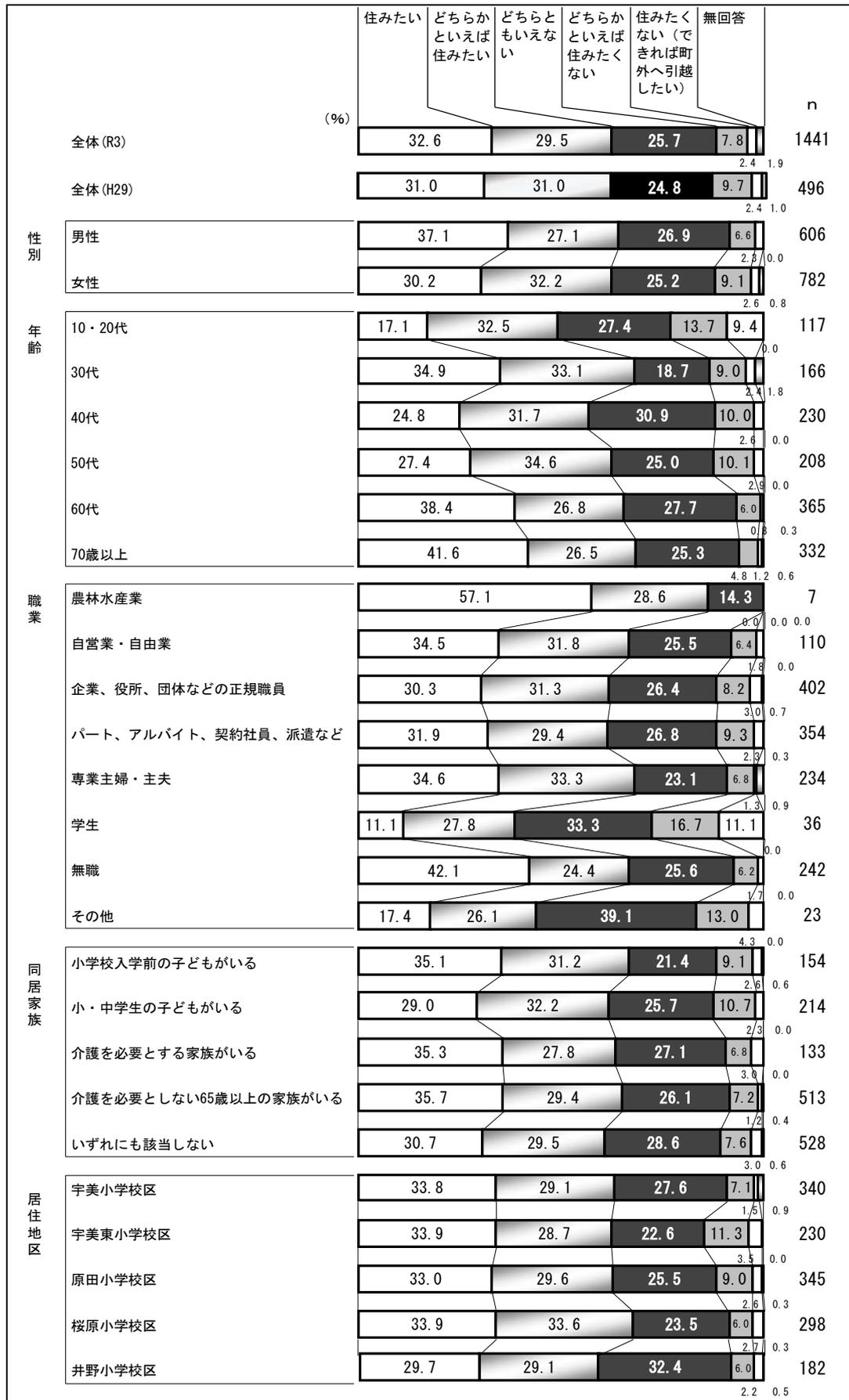
中学生の調査では、「大人になっても宇美町に住みたいと思いますか。」という間に同じ選択肢で1つを選んでもらいました。結果は、「どちらともいえない」が52.4%、“住みたい”が20.9%、“住みたくない”が26.7%でした。まちへの愛着度（問2）の結果は、町民の調査結果とほぼ同様だったことをあわせて考えると、“宇美町は好きだ”が、“大人になっても住みたいかどうかはどちらともいえない”という回答が多く、“住みたい”という回答を“住みたくない”という回答が上回っています。[下記【比較】参照]

属性別で“住みたい”という率をみると、性別では、大きな違いはみられませんが、年齢別では、高い順に、30代と70歳以上（同率68.1%）、60代（65.2%）、50代（62.0%）、40代（56.5%）、10・20代（49.6%）で、まちへの愛着度（問2）と同様に、30代で高く、10・20代で低くなっており、特に、30代の定住意向が最も強いことが本町の特徴としてあげられます。[図表4参照]

【比較】

前回の調査結果	“住みたい”が62.1%、「どちらともいえない」が24.8%、“住みたくない”が12.1%。
中学生の調査結果	“住みたい”が20.9%、「どちらともいえない」が52.4%、“住みたくない”が26.7%。

図表4 今後の定住意向（全体・性別・年齢・職業・同居家族・居住地区）



(4) 住みたくない主な理由

※問4で「4.」または「5.」に○をつけた方にかがいます。
問4-2 その主な理由はなんですか。【複数回答】

- 「道路・交通の便が悪い」が第1位、「買物の便が悪い」が第2位。

問4で“住みたくない”と答えた148人(全体の10.2%)に、住みたくない主な理由をたずねたところ、「道路・交通の便が悪い」(69.6%)が第1位、「買物の便が悪い」(37.8%)が第2位で、これらは他を引き離して代表的な理由となっており、“道路・交通や買物の便の悪さ”を指摘する人が多くなっています。

これら以外では、「働く場が不十分」(18.9%)、「行政サービスが不十分」(17.6%)、「子育て環境が不十分」(14.2%)などの順となっています。[図表5参照]

前回の調査結果(選択肢はやや異なる)と比較すると、第3位と第4位が入れ替わっているものの、上位回答はほぼ同様で、大きな変化はみられません。

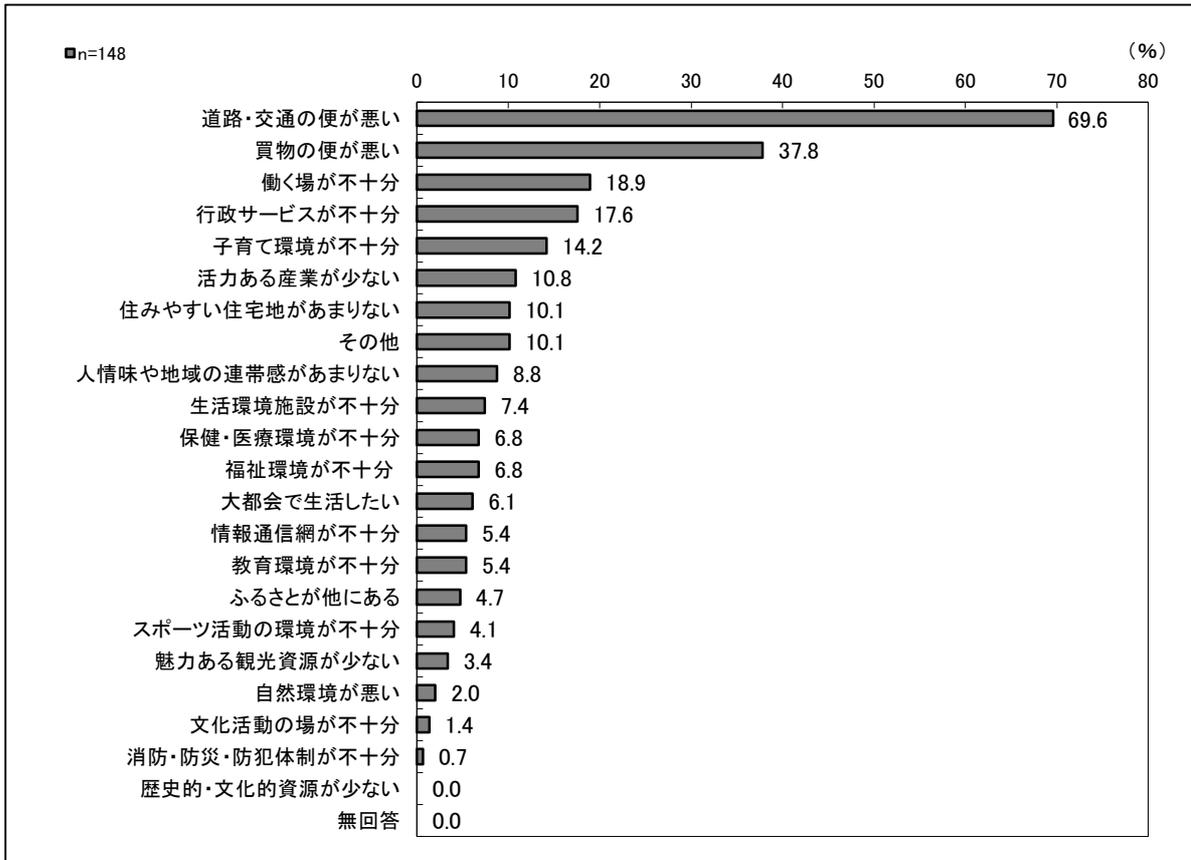
中学生の調査結果と比較すると、「買物の便が悪い」が第2位であることは共通していますが、第1位をみると、町民では「道路・交通の便が悪い」(中学生では第5位)、中学生では「都会で暮らしたい」(町民では第13位)となっており、町民では“道路・交通の便の悪さ”、中学生では“都会へのあこがれ”が最も大きな理由としてあげられています。

職員の調査結果(宇美町の問題なところ)と比較すると、「道路・交通の便が悪い」が第1位であることは共通していますが、第2位をみると、町民で第2位の「買物の便が悪い」は職員では第4位で、職員では「活力ある産業が少ない」(町民では第6位)が第2位となっており、職員では、“道路・交通の便の悪さ”に次いで、“活力ある産業の少なさ”を指摘する人が多い結果となっています。[下記【比較】参照]

【比較】

前回の調査結果	「交通の便が悪い」、「買物の便が悪い」、「行政サービスが不十分」の順。
中学生の調査結果	「都会で暮らしたい」、「買物の便が悪い」、「大学や仕事で町外へ出るつもり」の順。
職員の調査結果	「道路・交通の便が悪い」、「活力ある産業が少ない」、「魅力ある観光資源が少ない」の順。

図表5 住みたくない主な理由（全体／複数回答）



2 まちの現状と今後の取組について

(1) まちの各施策に関する満足度

問5 宇美町では、現在、第6次総合計画後期実践計画に基づき、次のような施策を行っています。
それぞれの施策について、以下の内容をおたずねしますので、あなたのお考えに最も近いものを、項目ごとにそれぞれ1つ選んで、数字に○印をつけてください。
(1) あなたは、この施策にどの程度満足していますか。【満足度】

- 満足度が最も高い項目は「循環型社会形成の推進」、次いで「読書活動の推進」、「上・下水道の整備」の順。
- 満足度が最も低い項目は「道路網の充実」、次いで「交通網の充実」、「観光の振興」の順。

まちの各施策について、町民がどの程度満足しているかを把握するため、第6次宇美町総合計画後期実践計画に基づき、8分野31項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化【後述参照】で評価点（満足度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、満足度が最も高い項目は「循環型社会形成の推進」（2.86点）で、次いで第2位が「読書活動の推進」（1.72点）、第3位が「上・下水道の整備」（1.67点）、続いて「文化財の保存と活用」（1.43点）、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」（1.29点）、「町民の健康づくりの推進」（1.22点）、「防災対策の充実」（1.20点）、「スポーツ活動の推進」（1.11点）などの順となっています。

一方、満足度が最も低い項目は「道路網の充実」（-1.27点）で、次いで第2位が「交通網の充実」（-0.78点）、第3位が「観光の振興」（-0.76点）、続いて「商工業・サービス業の振興」（-0.47点）、「交通安全の充実」（-0.25点）、「都市機能の立地誘導・集約」（-0.22点）、「生活環境の保全・向上」（-0.19点）、「農林業の振興」（-0.15点）などの順となっています。

分野別にみると、共働・地域コミュニティ分野、安全安心分野、福祉・保健分野、子育て・教育・文化分野、生活環境分野、共生・行財政分野がプラスの評価点となり、産業分野、都市基盤分野がマイナスの評価点となっています。【図表6参照】

前回の調査結果と比較すると、満足度が大幅に上がった項目は「商工業・サービス業の振興」（0.66点上昇）、「都市機能の立地誘導・集約」（0.57点上昇）、「子育て支援の充実」（0.53点上昇）、「共働の推進」（0.52点上昇）などで、満足度が大幅に下がった項目は「生涯学習の推進」（0.70点低下）などとなっています。

職員の調査結果と比較すると、満足度の上位3項目と下位3項目はほぼ同様であり、まちの各施策に関する満足度については、町民の評価と職員の評価はほぼ一致しているといえます。【下記【比較】及びP15【前回調査との比較】参照】

【比較】

前回の調査結果

満足度が高い項目：「循環型社会形成の推進」、「上・下水道の整備」、
「読書活動の推進」の順。

満足度が低い項目：「道路・交通網の充実」、「商工業・サービス業
の振興」、「観光の振興」の順。

職員の調査結果

満足度が高い項目：「読書活動の推進」・「循環型社会形成の推進」、
「上・下水道の整備」の順。

満足度が低い項目：「道路網の充実」・「交通網の充実」、「観光の振
興」の順。

※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

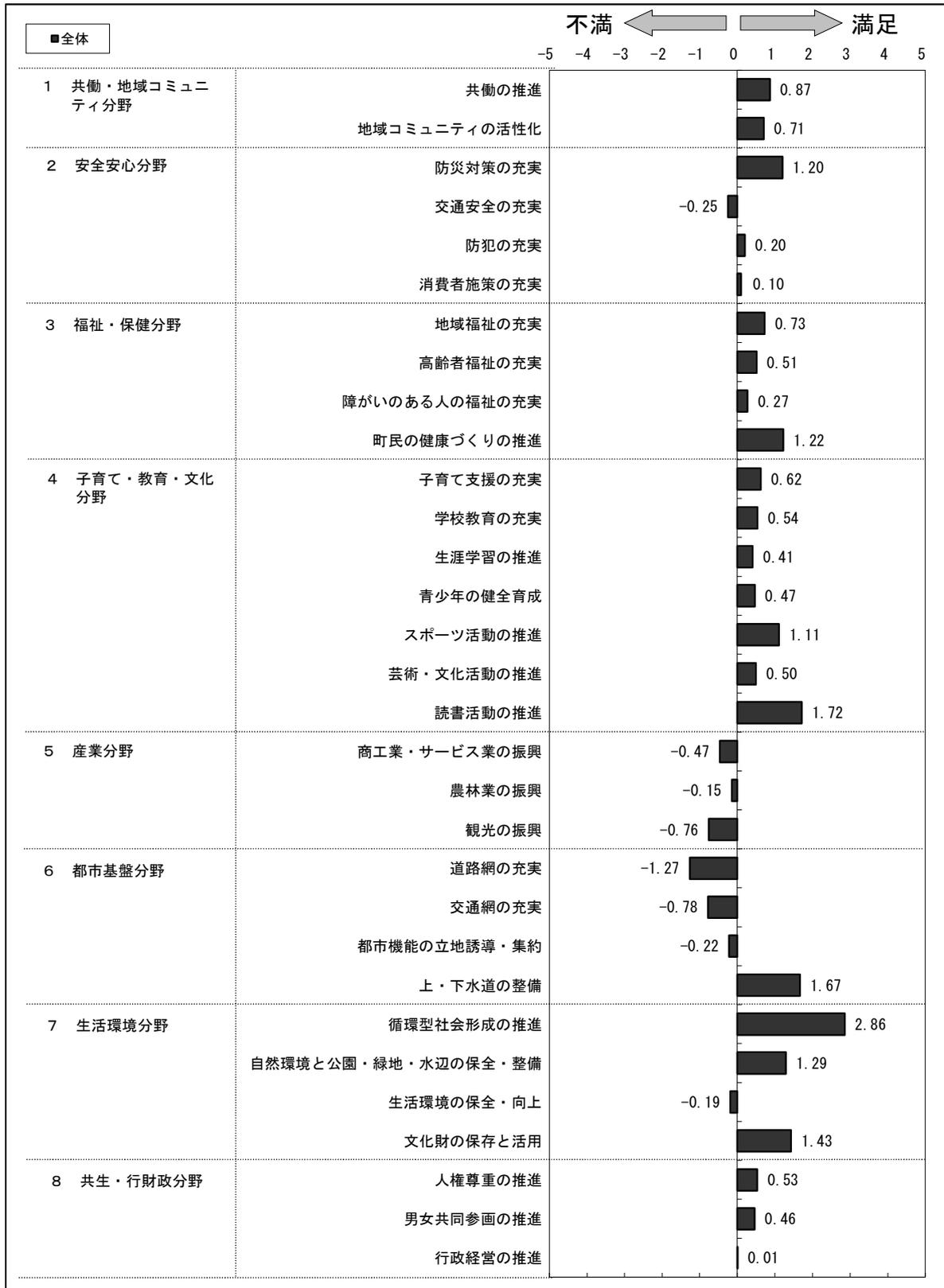
$$\begin{array}{l}
 \left[\begin{array}{l}
 \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\
 + \\
 \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\
 + \\
 \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\
 + \\
 \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\
 + \\
 \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点}
 \end{array} \right] \div \left[\begin{array}{l}
 \text{「満足している」、「どちらかとい} \\
 \text{えば満足している」、「どちら} \\
 \text{ともいえない」、「どちらかとい} \\
 \text{えば不満である」、「不満であ} \\
 \text{る」の回答者数}
 \end{array} \right]
 \end{array}$$

評価点

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

図表6 まちの各施策に関する満足度（全体）

（単位：評価点）



【前回調査との比較】（全体）

（単位：評価点）

分野	項目	前回の満足度	今回の満足度	比較
1 共働・地域コミュニティ分野	共働の推進	0.35	0.87	0.52 上昇
	地域コミュニティの活性化	0.52	0.71	0.19 上昇
2 安全安心分野	防災対策の充実	0.75	1.20	0.45 上昇
	交通安全の充実	0.17	-0.25	-
	防犯の充実		0.20	-
	消費者施策の充実	0.17	0.10	0.07 低下
3 福祉・保健分野	地域福祉の充実	0.44	0.73	0.29 上昇
	高齢者福祉の充実	0.40	0.51	0.11 上昇
	障がいのある人の福祉の充実	0.31	0.27	0.04 低下
	町民の健康づくりの推進	1.38	1.22	0.16 低下
4 子育て・教育・文化分野	子育て支援の充実	0.09	0.62	0.53 上昇
	学校教育の充実	0.11	0.54	0.43 上昇
	生涯学習の推進	1.11	0.41	0.70 低下
	青少年の健全育成	0.17	0.47	0.30 上昇
	スポーツ活動の推進	0.90	1.11	0.21 上昇
	芸術・文化活動の推進	0.45	0.50	0.05 上昇
	読書活動の推進	(○第3位) 1.47	(○第2位) 1.72	0.25 上昇
5 産業分野	商工業・サービス業の振興	(▲第2位) -1.13	-0.47	0.66 上昇
	農林業の振興	-0.57	-0.15	0.42 上昇
	観光の振興	(▲第3位) -1.09	(▲第3位) -0.76	0.33 上昇
6 都市基盤分野	道路網の充実	(▲第1位) -1.21	(▲第1位) -1.27	-
	交通網の充実		(▲第2位) -0.78	-
	都市機能の立地誘導・集約	-0.79	-0.22	0.57 上昇
	上・下水道の整備	(○第2位) 1.71	(○第3位) 1.67	0.04 低下
7 生活環境分野	循環型社会形成の推進	(○第1位) 2.58	(○第1位) 2.86	0.28 上昇
	自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備	1.29	1.29	同点
	生活環境の保全・向上	-	-0.19	-
	文化財の保存と活用	1.26	1.43	0.17 上昇
8 共生・行財政分野	人権尊重の推進	0.45	0.53	-
	男女共同参画の推進		0.46	-
	行政経営の推進	-0.23	0.01	0.24 上昇

注1 ○は上位3項目、▲は下位3項目。網かけ部分は前回よりも満足度が低下した項目を示している。

注2 前は、「交通安全・防犯の充実」、「道路・交通網の充実」、「人権尊重・男女共同参画の推進」については1つの項目であったが、今回は、「交通安全の充実」と「防犯の充実」、「道路網の充実」と「交通網の充実」、「人権尊重の推進」と「男女共同参画の推進」の2つにわけて調査した。

【居住地区別の比較】（満足度の上位3位と下位3位）

（単位：評価点）

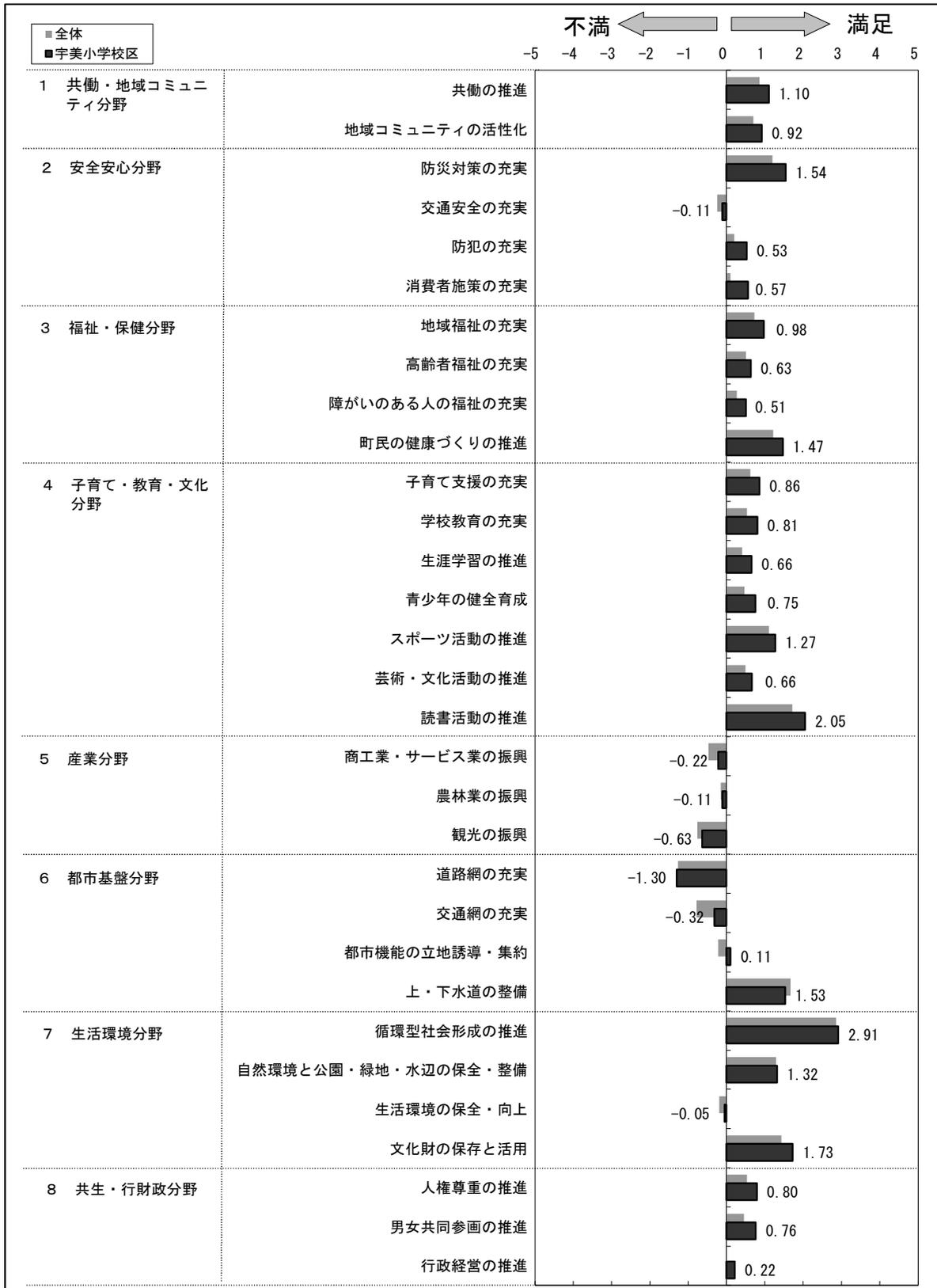
		上位第1位	上位第2位	上位第3位
全体		循環型社会形成の推進 2.86	読書活動の推進 1.72	上・下水道の整備 1.67
居住地区	宇美小学校区	循環型社会形成の推進 2.91	読書活動の推進 2.05	文化財の保存と活用 1.73
	宇美東小学校区	循環型社会形成の推進 2.67	読書活動の推進 1.70	自然環境と公園・緑地・ 水辺の保全・整備 1.54
	原田小学校区	循環型社会形成の推進 2.67	上・下水道の整備 1.77	読書活動の推進 1.60
	桜原小学校区	循環型社会形成の推進 3.15	上・下水道の整備 2.19	読書活動の推進 1.92
	井野小学校区	循環型社会形成の推進 3.08	上・下水道の整備 1.56	文化財の保存と活用 1.48

		下位第1位	下位第2位	下位第3位
全体		道路網の充実 -1.27	交通網の充実 -0.78	観光の振興 -0.76
居住地区	宇美小学校区	道路網の充実 -1.30	観光の振興 -0.63	交通網の充実 -0.32
	宇美東小学校区	交通網の充実 -1.24	道路網の充実 -1.10	観光の振興 -0.68
	原田小学校区	道路網の充実 -1.52	交通網の充実 -1.25	観光の振興 -0.79
	桜原小学校区	観光の振興 -0.91	道路網の充実 -0.88	交通網の充実 -0.67
	井野小学校区	道路網の充実 -1.42	商工業・サービス業の 振興 -1.06	観光の振興 -0.96

図表7 まちの各施策に関する満足度（全体・居住地区）

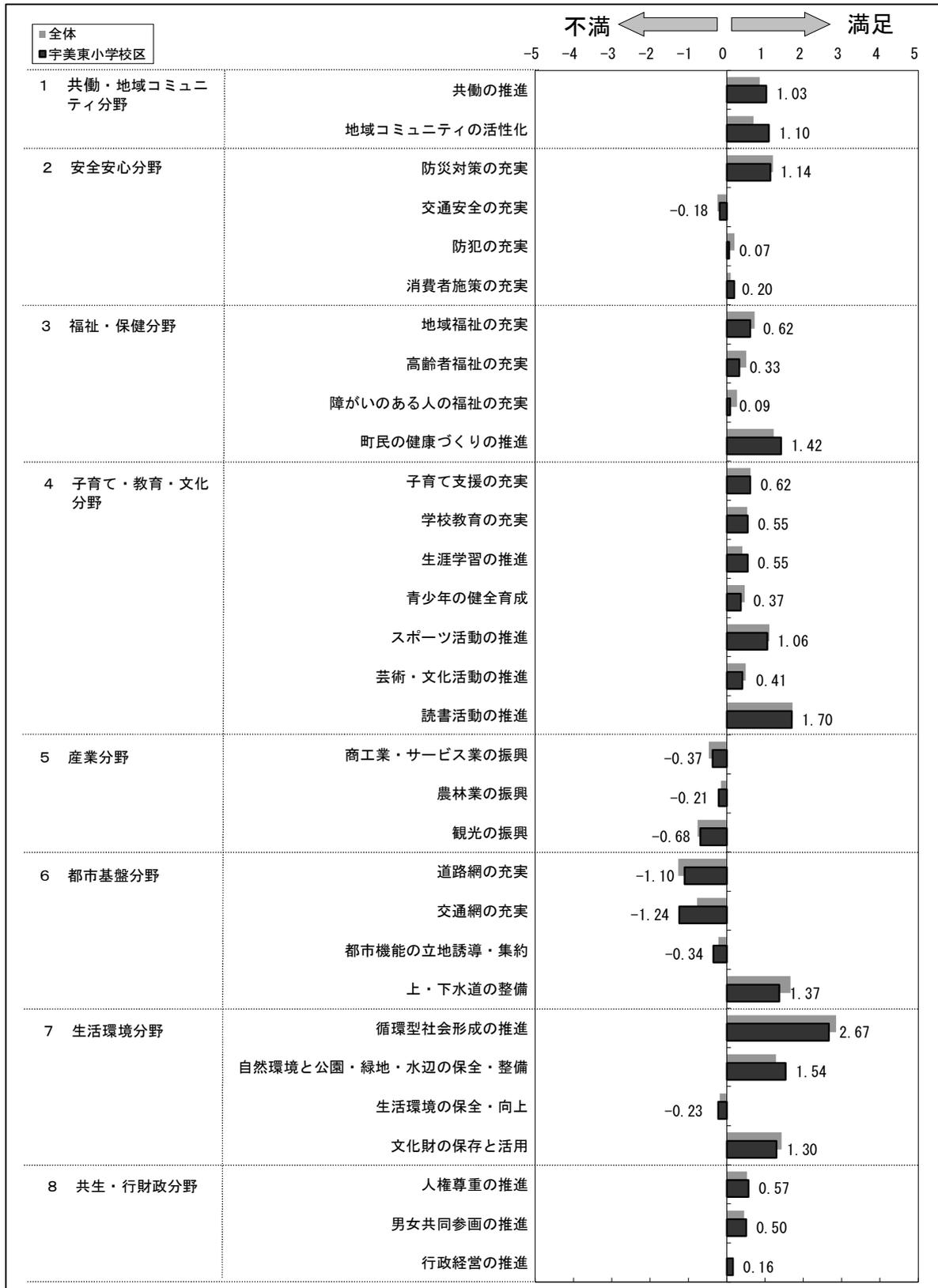
宇美小学校区

（単位：評価点）



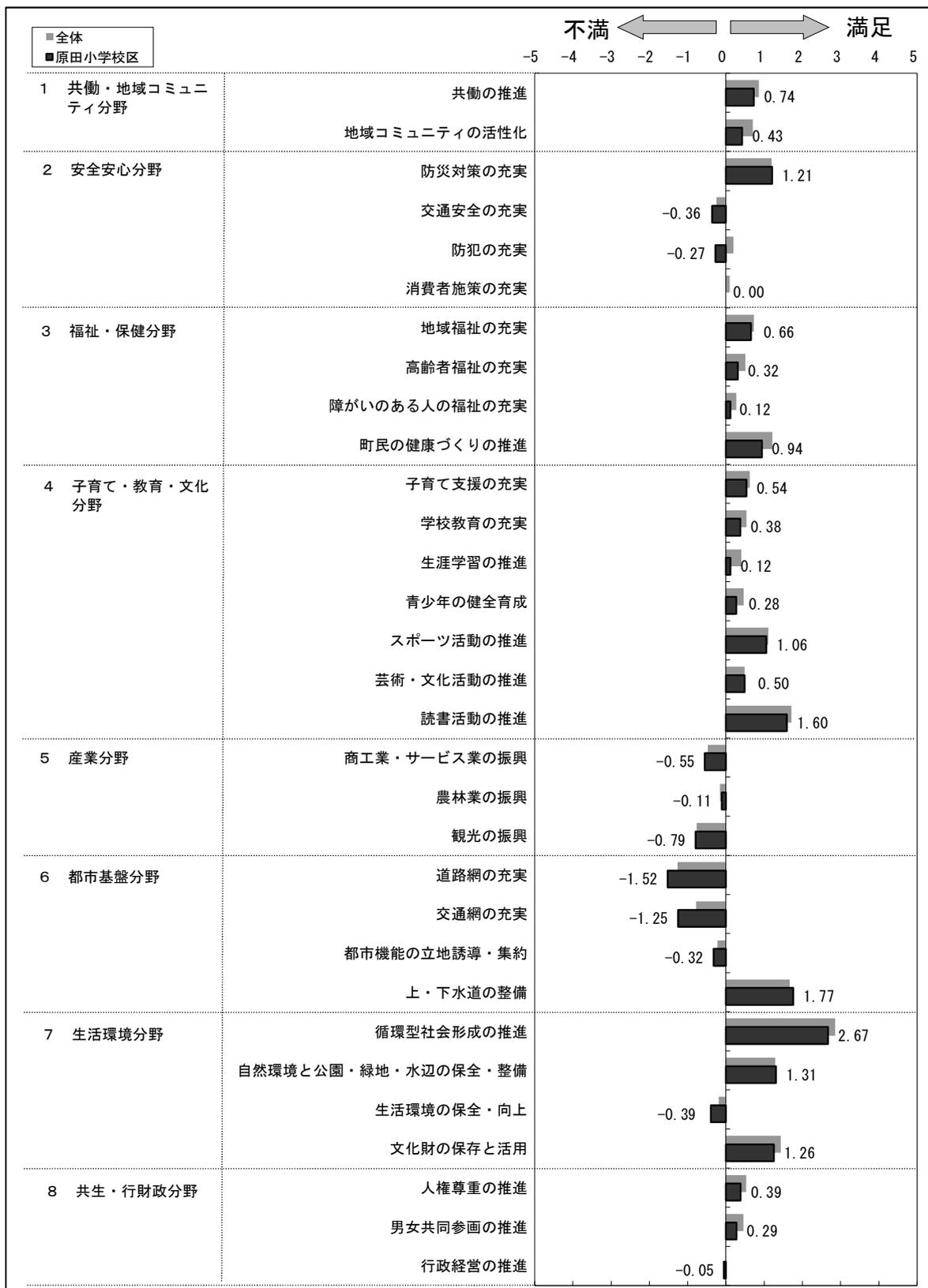
宇美東小学校区

(単位：評価点)



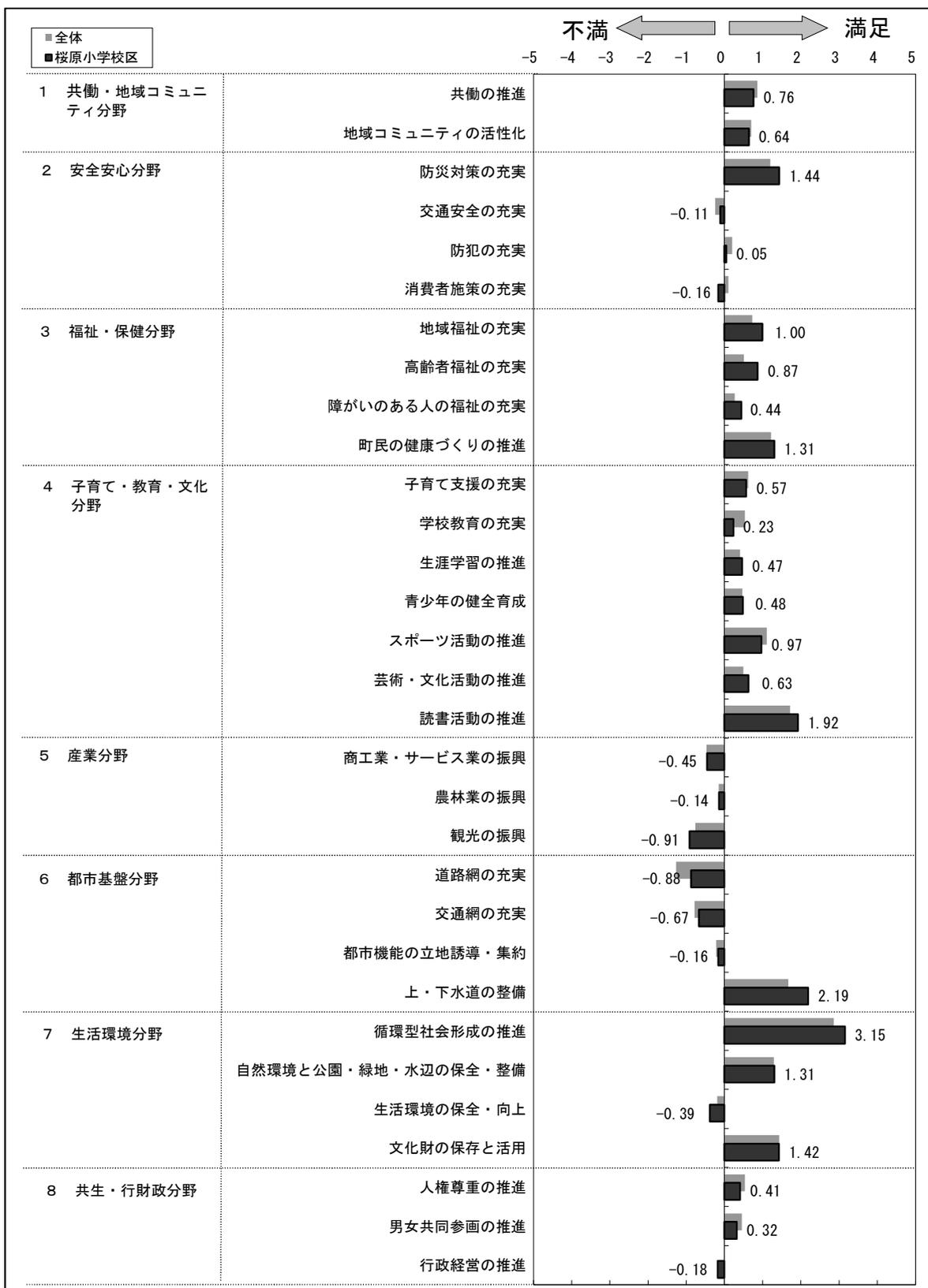
原田小学校区

(単位：評価点)



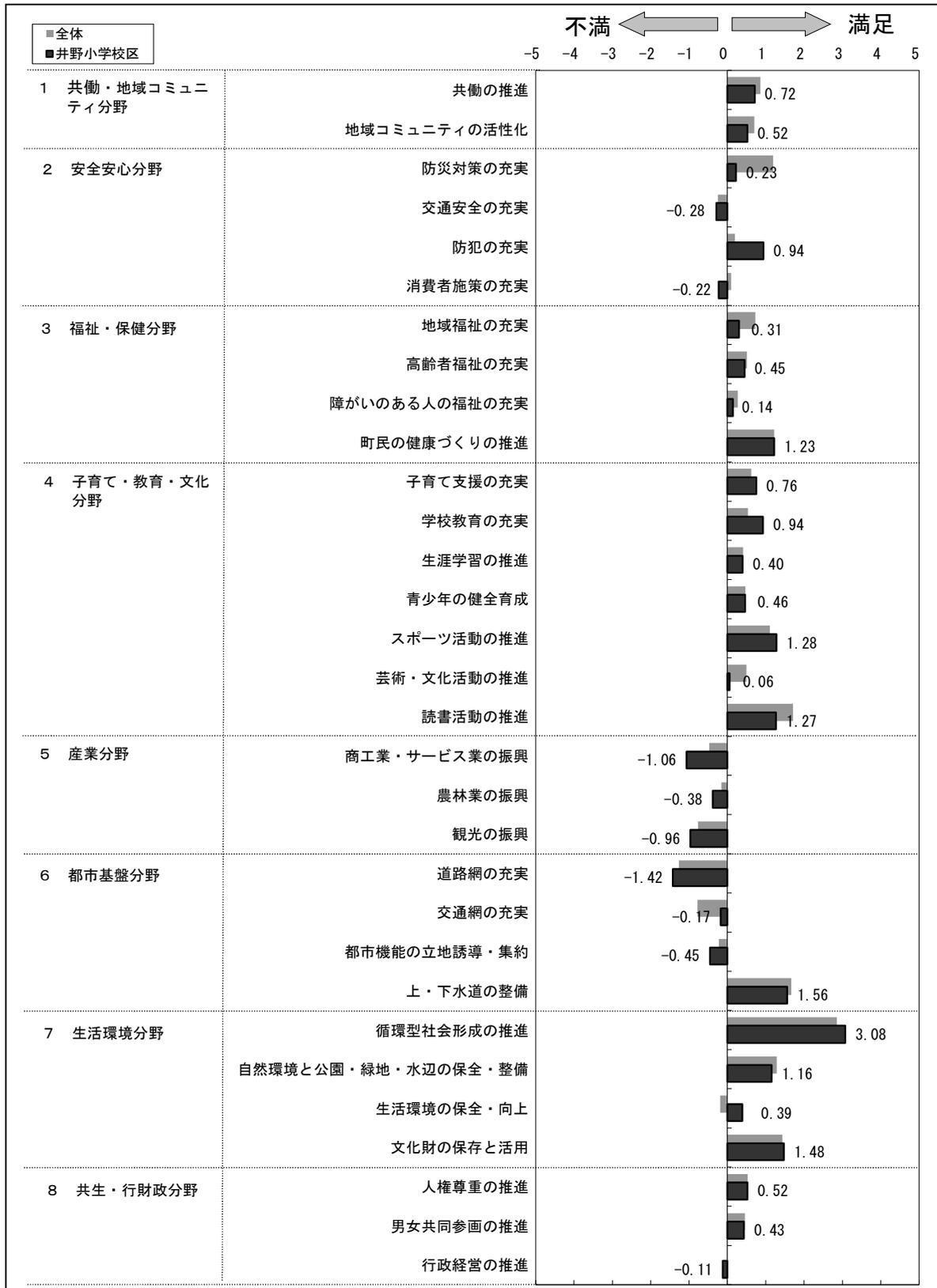
桜原小学校区

(単位：評価点)



井野小学校区

(単位：評価点)



(2) まちの各施策に関する重要度

問5 宇美町では、現在、第6次総合計画後期実践計画に基づき、次のような施策を行っています。

それぞれの施策について、以下の内容をおたずねしますので、あなたのお考えに最も近いものを、項目ごとにそれぞれ1つ選んで、数字に○印をつけてください。

(2) あなたは、この施策がどの程度重要だと思いますか。【重要度】



- 重要度が最も高い項目は「交通安全の充実」。次いで「交通網の充実」、「防犯の充実」、「循環型社会形成の推進」、「道路網の充実」の順。

まちの各施策について、町民がどの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ8分野31項目について、「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の5段階で評価してもらい、加重平均値による数量化【次頁参照】で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、重要度が最も高い項目は「交通安全の充実」（5.63点）で、次いで第2位が「交通網の充実」（5.53点）、第3位が「防犯の充実」（5.51点）、続いて「循環型社会形成の推進」（5.20点）、「道路網の充実」（5.15点）、「防災対策の充実」（5.02点）、「町民の健康づくりの推進」（4.73点）、「上・下水道の整備」（4.57点）、「子育て支援の充実」（4.54点）、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」（4.50点）などの順となっています。

これら上位10項目をみると、“事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり”と“道路・交通網の利便性の向上”をはじめ、“きれいで快適な生活環境の整備”、“健康づくり環境や子育て環境の充実”が重視されていることがうかがえます。【図表8参照】

前回の調査結果と比較すると、重要度が大幅に上がった項目は「消費者施策の充実」・「青少年の健全育成」（同点0.38点上昇）、「自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備」（0.26点上昇）、「循環型社会形成の推進」（0.21点上昇）、「学校教育の充実」（0.18点上昇）などとなっています。

職員の調査結果と比較すると、重要度の上位5項目は、「交通網の充実」と「道路網の充実」は共通してあげられていますが、町民では「交通安全の充実」（職員では第6位）が第1位、「防犯の充実」（職員では第10位）が第3位、「循環型社会形成の推進」（職員では第17位）が第4位となるなど、まちの各施策に関する重要度については、町民の評価と職員の評価には違いがあります。【下記【比較】及びP25【前回調査との比較】参照】

【比較】

前回の調査結果

重要度が高い項目：「道路・交通網の充実」、「交通安全・防犯の充実」、「防災対策の充実」、「循環型社会形成の推進」、「上・下水道の整備」の順。

職員の調査結果

重要度が高い項目：「道路網の充実」、「交通網の充実」、「子育て支援の充実」、「防災対策の充実」、「学校教育の充実」の順。

※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{matrix} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{matrix}}{\begin{matrix} \text{「重視している」、「やや重視し} \\ \text{ている」、「どちらともいえない} \\ \text{」、「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{matrix}}$$

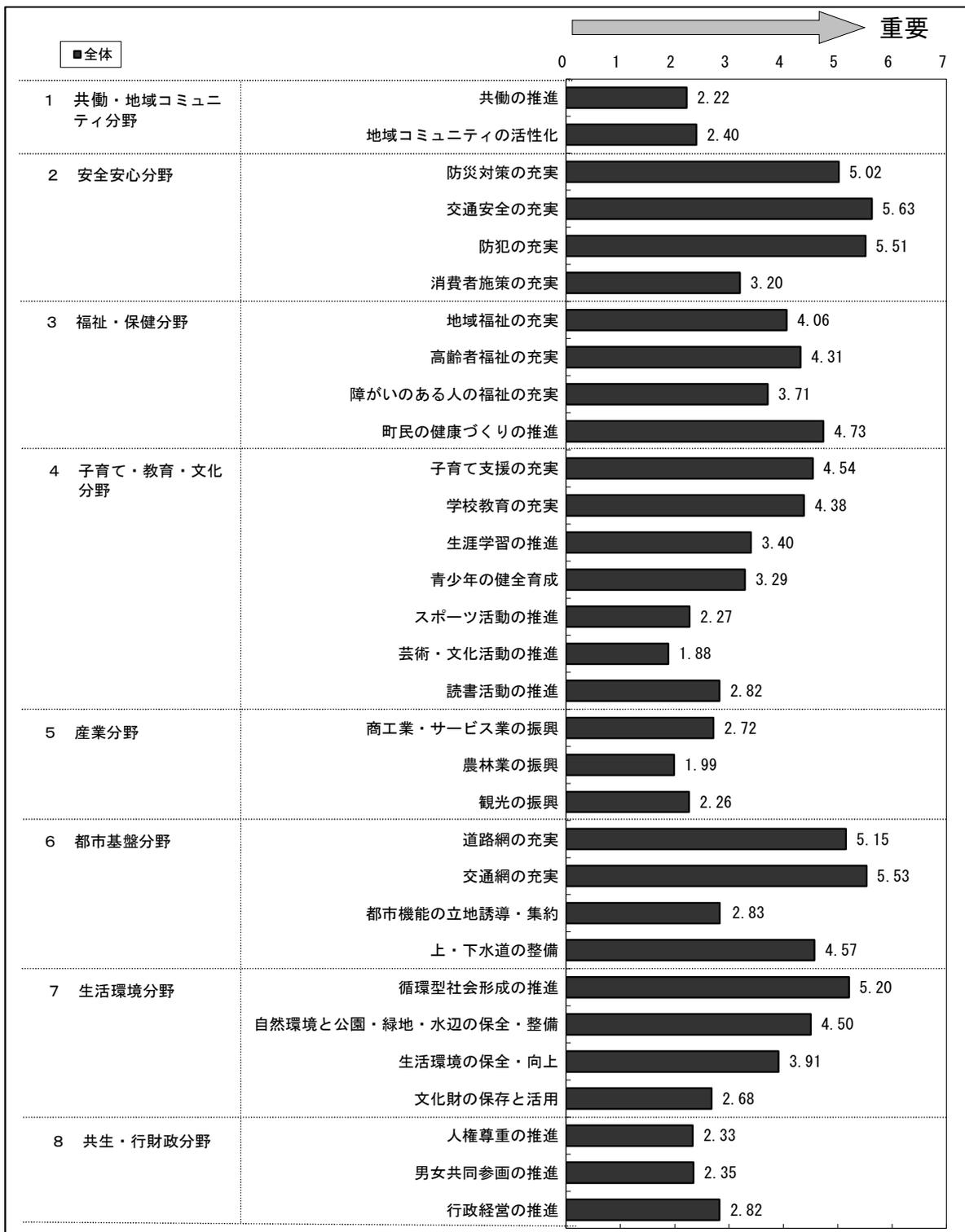
【居住地区別の比較】（重要度の上位5位）

（単位：評価点）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		交通安全の 充実 5.63	交通網の充 実 5.53	防犯の充実 5.51	循環型社会 形成の推進 5.20	道路網の充 実 5.15
居 住 地 区	宇美小学校区	交通安全の 充実 5.76	交通網の充 実 5.64	防犯の充実 5.57	道路網の充 実 5.54	循環型社会 形成の推進 5.14
	宇美東小学校区	交通安全の 充実 5.20	交通網の充 実 5.19	防犯の充実 5.09	道路網の充実／循環型社会 形成の推進 4.79	
	原田小学校区	交通網の充 実 5.90	交通安全の 充実 5.58	循環型社会 形成の推進 5.53	防犯の充実 5.52	道路網の充 実 5.18
	桜原小学校区	交通安全の 充実 5.99	防犯の充実 5.66	防災対策の 充実 5.39	循環型社会 形成の推進 5.34	交通網の充 実 5.23
	井野小学校区	交通安全の 充実 5.76	防犯の充実 5.67	交通網の充 実 5.66	循環型社会 形成の推進 5.37	道路網の充 実 5.29

図表8 まちの各施策に関する重要度（全体）

（単位：評価点）



【前回調査との比較】（全体）

（単位：評価点）

分野	項目	前回の重要度	今回の重要度	比較
1 共働・地域コミュニティ分野	共働の推進	2.56	2.22	0.34 低下
	地域コミュニティの活性化	2.79	2.40	0.39 低下
2 安全安心分野	防災対策の充実	(○第3位) 5.13	5.02	0.11 低下
	交通安全の充実	(○第2位) 5.50	(○第1位) 5.63	-
	防犯の充実		(○第3位) 5.51	-
	消費者施策の充実	2.82	3.20	0.38 上昇
3 福祉・保健分野	地域福祉の充実	4.05	4.06	0.01 上昇
	高齢者福祉の充実	4.37	4.31	0.06 低下
	障がいのある人の福祉の充実	4.19	3.71	0.48 低下
	町民の健康づくりの推進	4.82	4.73	0.09 低下
4 子育て・教育・文化分野	子育て支援の充実	4.63	4.54	0.09 低下
	学校教育の充実	4.20	4.38	0.18 上昇
	生涯学習の推進	3.74	3.40	0.34 低下
	青少年の健全育成	2.91	3.29	0.38 上昇
	スポーツ活動の推進	2.73	2.27	0.46 低下
	芸術・文化活動の推進	2.10	1.88	0.22 低下
	読書活動の推進	2.89	2.82	0.07 低下
5 産業分野	商工業・サービス業の振興	2.73	2.72	0.01 低下
	農林業の振興	1.82	1.99	0.17 上昇
	観光の振興	2.36	2.26	0.10 低下
6 都市基盤分野	道路網の充実	(○第1位) 5.69	(○第5位) 5.15	-
	交通網の充実		(○第2位) 5.53	-
	都市機能の立地誘導・集約	3.50	2.83	0.67 低下
	上・下水道の整備	(○第5位) 4.87	4.57	0.30 低下
7 生活環境分野	循環型社会形成の推進	(○第4位) 4.99	(○第4位) 5.20	0.21 上昇
	自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備	4.24	4.50	0.26 上昇
	生活環境の保全・向上	-	3.91	-
	文化財の保存と活用	2.93	2.68	0.25 低下
8 共生・行財政分野	人権尊重の推進	2.61	2.33	-
	男女共同参画の推進		2.35	-
	行政経営の推進	2.71	2.82	0.11 上昇

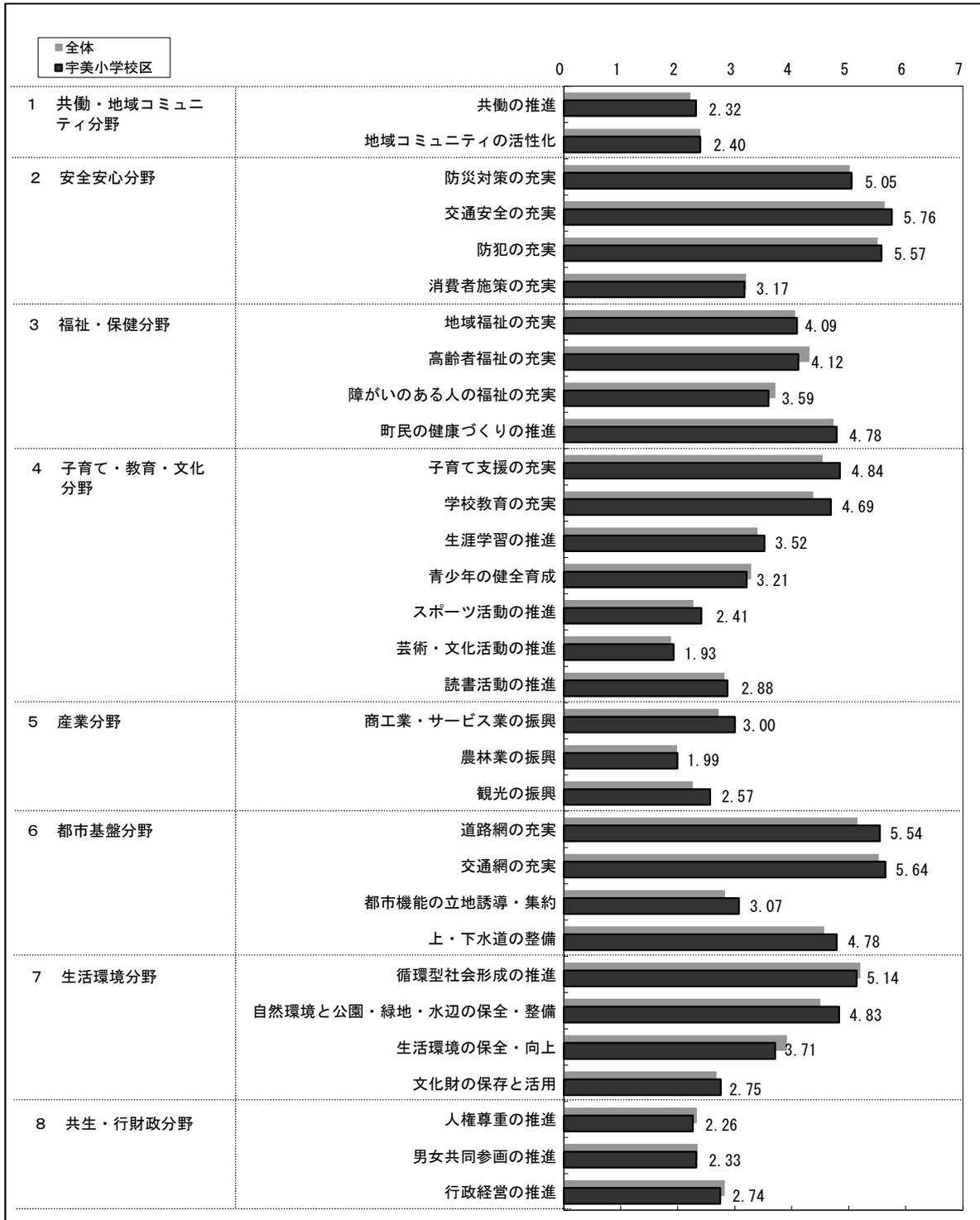
注1 ○は上位5項目。網かけ部分は前回よりも重要度が上昇した項目を示している。

注2 前は、「交通安全・防犯の充実」、「道路・交通網の充実」、「人権尊重・男女共同参画の推進」については1つの項目であったが、今回は、「交通安全の充実」と「防犯の充実」、「道路網の充実」と「交通網の充実」、「人権尊重の推進」と「男女共同参画の推進」の2つにわけて調査した。

図表9 まちの各施策に関する重要度（全体・居住地区）

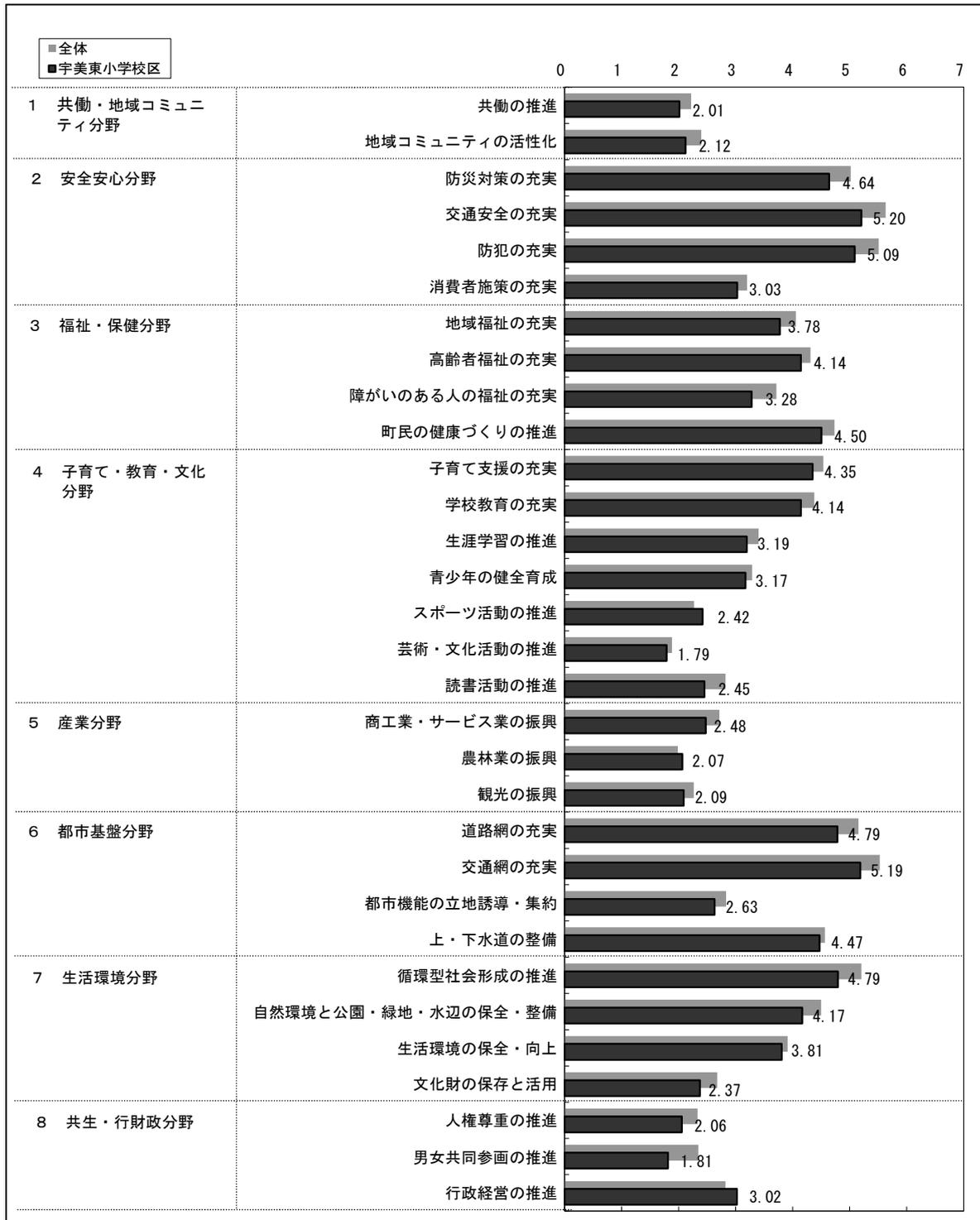
宇美小学校区

（単位：評価点）



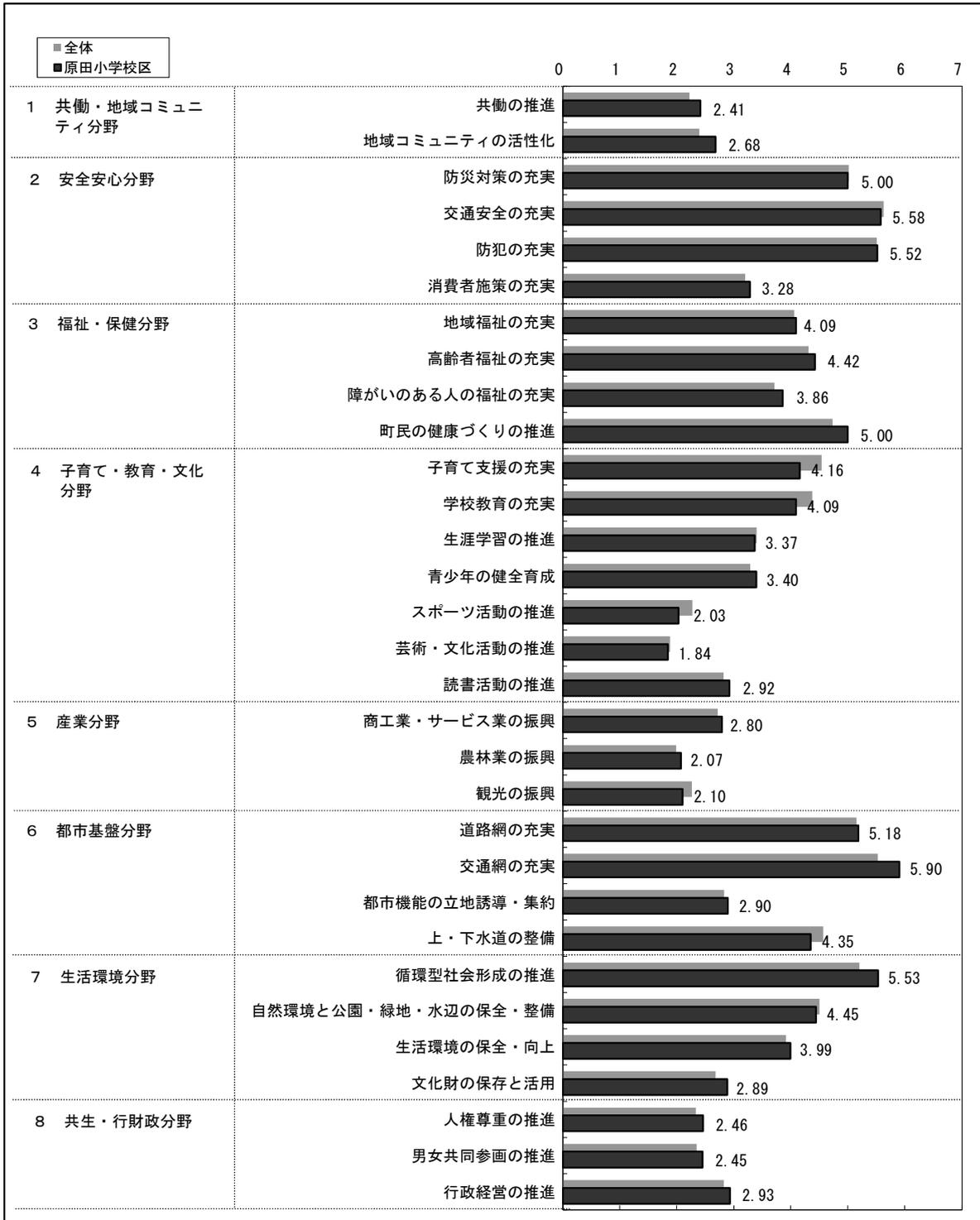
宇美東小学校区

(単位：評価点)



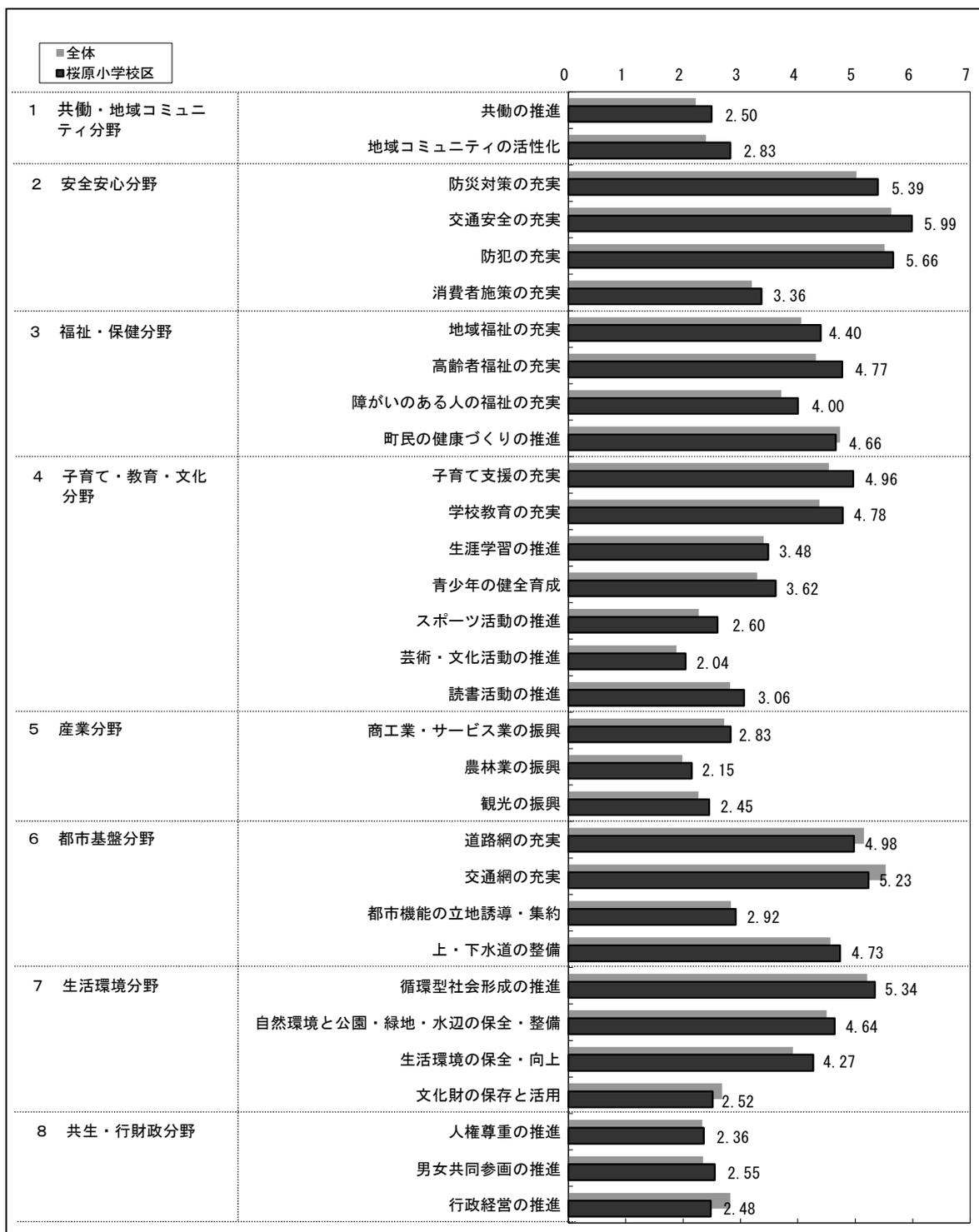
原田小学校区

(単位：評価点)



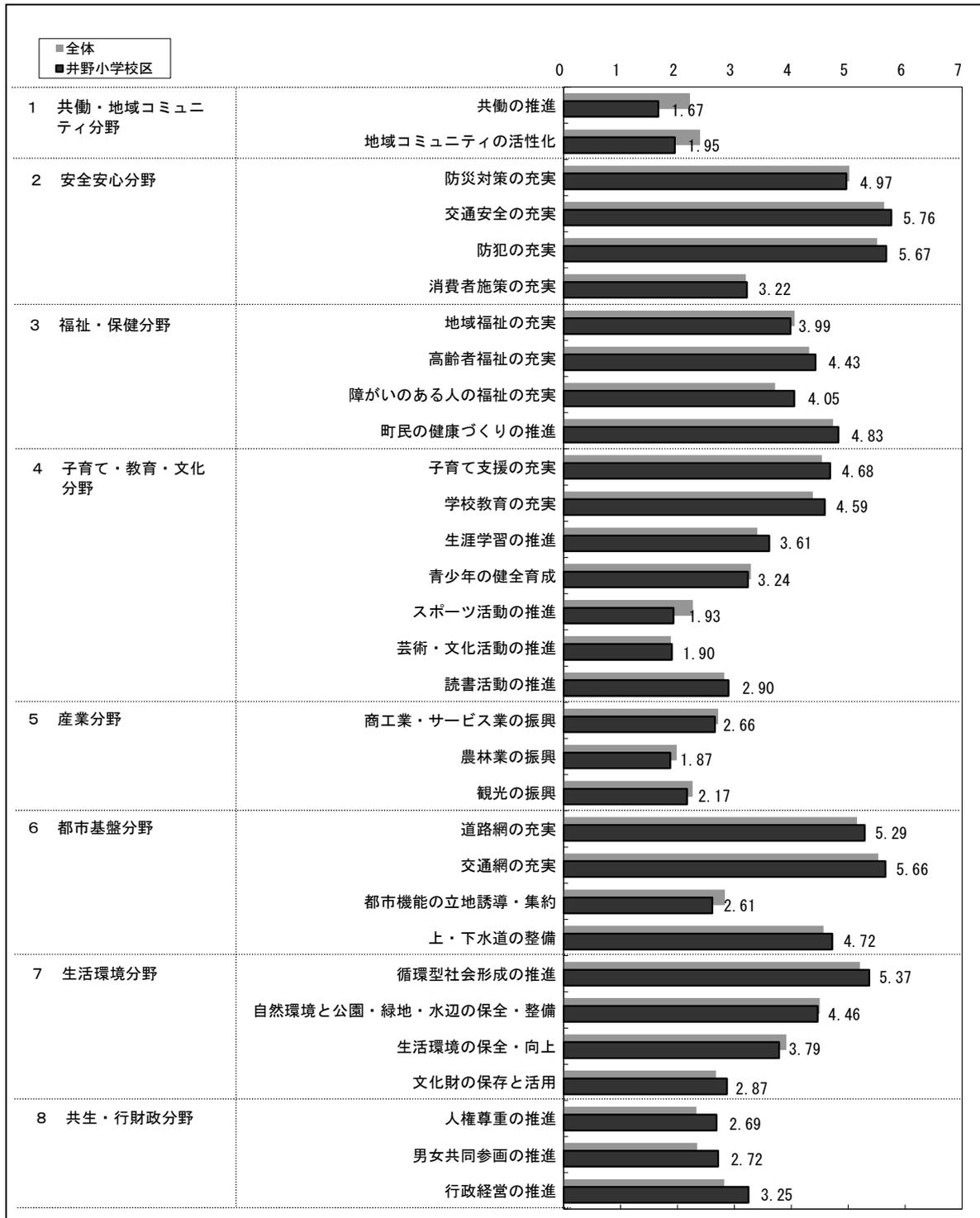
桜原小学校区

(単位：評価点)



井野小学校区

(単位：評価点)



(3) まちの各施策に関する満足度と重要度の相関

● 満足度が低く重要度が高いエリアに位置する主な項目は、「交通網の充実」、「道路網の充実」、「交通安全の充実」、「防犯の充実」。

これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、各施策がどのような位置づけを持つかを検討するための一つの試みとして、満足度評価と重要度評価を相関させた散布図を作成し、AからDの4つのエリアに分類しました。

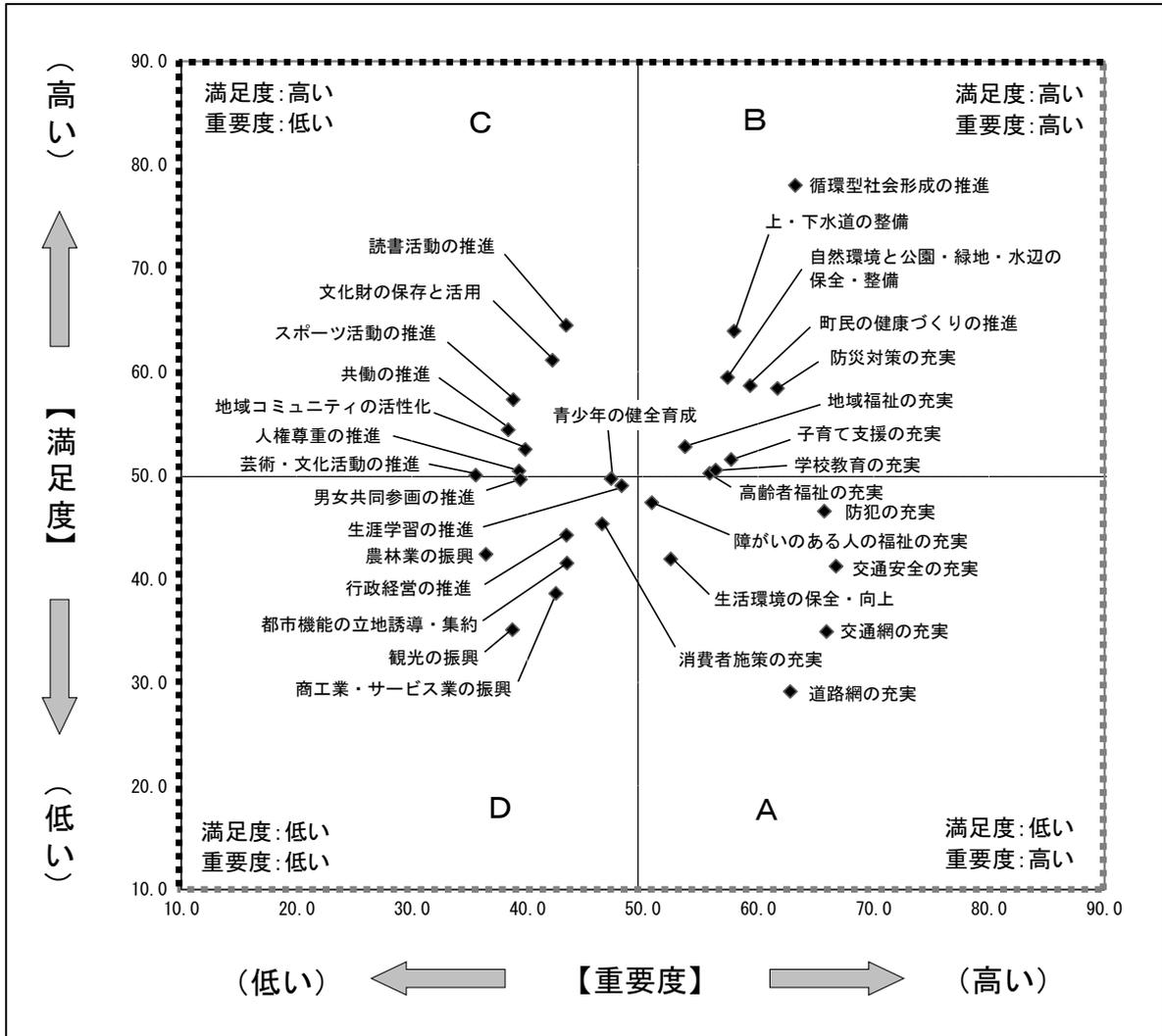
Aのエリアは、満足度が平均値より低く、重要度が平均値より高いエリアであり、ここに位置する施策は、特に取組の推進や改善に対する町民の期待が高い項目と考えられ、従来の施策の取組方向について、さらに改善を検討する必要があると思われる項目です。満足度評価と重要度評価を相関させた分類の結果、このAのエリアに位置する主な施策は、「交通網の充実」、「道路網の充実」、「交通安全の充実」、「防犯の充実」、「生活環境の保全・向上」などとなっています。[図表 10・11 参照]

前回の調査結果と比較すると、Aのエリアの主な項目は同様（前回は、「交通安全・防犯の充実」、「道路・交通網の充実」は1つの項目であった）で、大きな変化はみられません。

職員の調査結果と比較すると、「交通網の充実」と「道路網の充実」が主な項目であることに変わりはありませんが、これら以外をみると、町民では「交通安全の充実」、「防犯の充実」、「生活環境の保全・向上」、職員では「商工業・サービス業の振興」、「観光の振興」、「交通安全の充実」となっています。[下記【比較】参照]

【比較】	
前回の調査結果	Aのエリアの項目：「道路・交通網の充実」、「交通安全・防犯の充実」、「子育て支援の充実」、「学校教育の充実」など。
職員の調査結果	Aのエリアの項目：「道路網の充実」、「交通網の充実」、「商工業・サービス業の振興」、「観光の振興」など。

図表 10 まちの各施策に関する満足度と重要度の相関



A 満足度が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目

グラフ右下に位置する項目は、施策の必要性が十分認識され、特に取組の推進や改善に対する町民の期待が高い項目と考えられ、従来の施策の取組方向について、さらに改善を検討する必要があると思われる。

B 満足度、重要度ともに平均値より高い項目

グラフ右上に位置する項目は、施策の必要性が十分認識され、その取組にも満足されている項目と考えられ、今後も現在の水準を維持・向上させるため、着実に取組を推進する必要があると思われる。

C 満足度が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目

グラフ左上に位置する項目は、他の施策と比較してその必要性の認識は低いものの、取組には満足されている項目と考えられ、現状どおりの着実な取組の推進とともに、施策の重要性についてさらに認知してもらえ取組を進める必要があると思われる。

D 満足度、重要度ともに平均値より低い項目

グラフ左下に位置する項目は、他の施策と比較してその必要性の認識が低い上、現状の取組には満足されていない項目と考えられ、施策の重要性をさらに認知してもらえような取組とともに、従来の施策の取組方向の改善を検討する必要があると思われる。

図表 11 まちの各施策に関する満足度と重要度の相関（各エリアの項目）

エリア	項 目
A	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通網の充実 ◆道路網の充実 ◆交通安全の充実 ◆防犯の充実 ◆生活環境の保全・向上 ◆障がいのある人の福祉の充実
B	<ul style="list-style-type: none"> ◆循環型社会形成の推進 ◆上・下水道の整備 ◆防災対策の充実 ◆町民の健康づくりの推進 ◆自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備 ◆子育て支援の充実 ◆学校教育の充実 ◆高齢者福祉の充実 ◆地域福祉の充実
C	<ul style="list-style-type: none"> ◆読書活動の推進 ◆スポーツ活動の推進 ◆文化財の保存と活用 ◆共働の推進 ◆芸術・文化活動の推進 ◆地域コミュニティの活性化 ◆人権尊重の推進
D	<ul style="list-style-type: none"> ◆観光の振興 ◆農林業の振興 ◆商工業・サービス業の振興 ◆都市機能の立地誘導・集約 ◆行政経営の推進 ◆男女共同参画の推進 ◆消費者施策の充実 ◆青少年の健全育成 ◆生涯学習の推進

(4) 今後のまちづくりの特色

問6 あなたは、今後のまちづくりにおいて、宇美町をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。【複数回答】

- 「安全・安心のまち」が第1位。次いで「健康・福祉のまち」、「子育て・教育のまち」、「快適住環境のまち」の順。

今後、宇美町をどのような特色のあるまちにすべきかについては、「安全・安心のまち」(60.1%)が第1位、次いで「健康・福祉のまち」(45.9%)が第2位、「子育て・教育のまち」(34.7%)が第3位、ほぼ同率で「快適住環境のまち」(33.9%)が第4位で、これらは他を引き離して代表的な回答となっており、問5の「まちの各施策に関する重要度」の結果を裏づけるように、“事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり”が強く求められているほか、“保健・医療・福祉の充実”や“子育て環境・教育環境の充実”、“きれいで快適な生活環境の整備”が望まれていることがうかがえます。[図表12参照]

中学生の調査結果と比較すると、「安全・安心のまち」が第1位であることに変わりはありませんが、第2位をみると、町民では「健康・福祉のまち」(中学生では第9位)、中学生では「共働のまち」(町民では第6位)となっており、“事故や犯罪、災害のない安全・安心なまちづくり”に次いで、町民では“保健・医療・福祉の充実”、中学生では“町民と行政との共働のまちづくり”が望まれています。

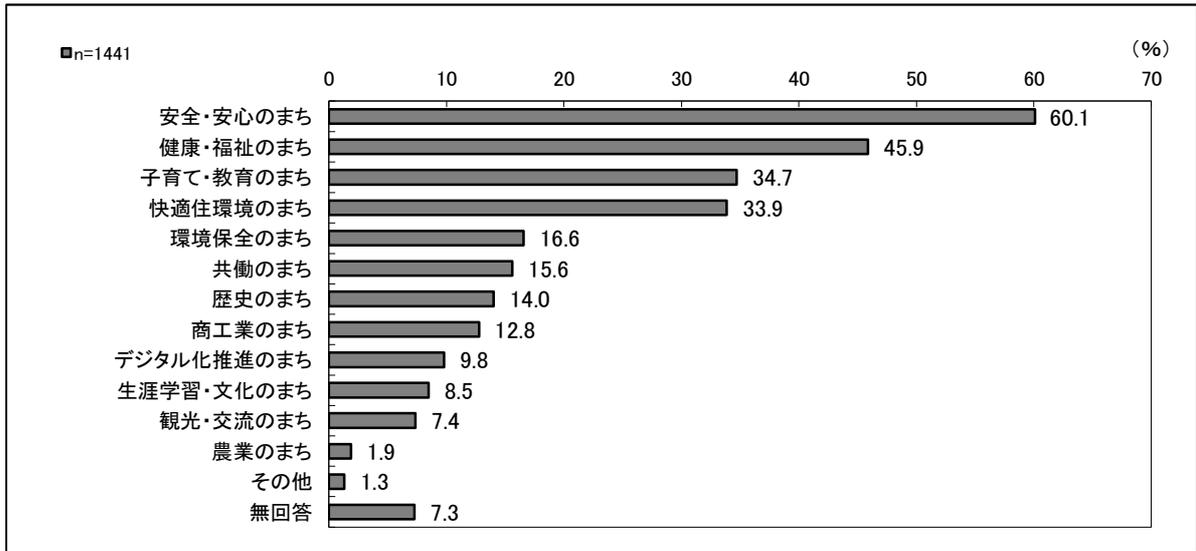
職員の調査結果と比較すると、町民では「安全・安心のまち」(職員では第2位)と「健康・福祉のまち」(職員では第6位)が上位を占めていますが、職員では「子育て・教育のまち」(町民では第3位)が他を引き離して第1位となっています。[下記【比較】参照]

属性別で見ると、ほとんどの属性で町全体と同様に「安全・安心のまち」が第1位、「健康・福祉のまち」が第2位となっていますが、30代では「子育て・教育のまち」(63.3%)が第1位、10・20代と40代でも「子育て・教育のまち」(45.3%・41.3%)が第2位となっており、これら子育て世代では、“子育て環境・教育環境の充実”が最も重視されていることがうかがえます。[図表13参照]

【比較】

中学生の調査結果	「安全・安心のまち」、「共働のまち」、「快適住環境のまち」、「環境保全のまち」の順。
職員の調査結果	「子育て・教育のまち」、「安全・安心のまち」、「商工業のまち」、「快適住環境のまち」の順。

図表 12 今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）



図表 13 今後のまちづくりの特色
（全体・性別・年齢・居住地区－上位3位／複数回答）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		安全・安心のまち 60.1	健康・福祉のまち 45.9	子育て・教育のまち 34.7
性別	男性	安全・安心のまち 60.7	健康・福祉のまち 44.7	快適住環境のまち 35.0
	女性	安全・安心のまち 61.0	健康・福祉のまち 47.2	子育て・教育のまち 35.5
年齢	10・20代	安全・安心のまち 48.7	子育て・教育のまち 45.3	健康・福祉のまち 28.2
	30代	子育て・教育のまち 63.3	安全・安心のまち 53.6	健康・福祉のまち／快適住環境のまち 38.6
	40代	安全・安心のまち 58.7	子育て・教育のまち 41.3	健康・福祉のまち 38.3
	50代	安全・安心のまち 53.4	健康・福祉のまち 49.0	快適住環境のまち 35.1
	60代	安全・安心のまち 65.5	健康・福祉のまち 55.6	快適住環境のまち 37.8
	70歳以上	安全・安心のまち 68.1	健康・福祉のまち 47.6	快適住環境のまち 30.4
居住地区	宇美小学校区	安全・安心のまち 58.8	健康・福祉のまち 42.9	子育て・教育のまち 38.8
	宇美東小学校区	安全・安心のまち 62.2	健康・福祉のまち 44.3	快適住環境のまち 33.9
	原田小学校区	安全・安心のまち 58.6	健康・福祉のまち 47.5	子育て・教育のまち 35.4
	桜原小学校区	安全・安心のまち 62.8	健康・福祉のまち 46.6	子育て・教育のまち 33.9
	井野小学校区	安全・安心のまち 59.9	健康・福祉のまち 48.9	快適住環境のまち 39.6

3 日頃の行動や考えなどについて

(1) 宇美町は安全に暮らせるまちだと思うか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

①あなたは、宇美町は安全に暮らせるまちだと思いますか。

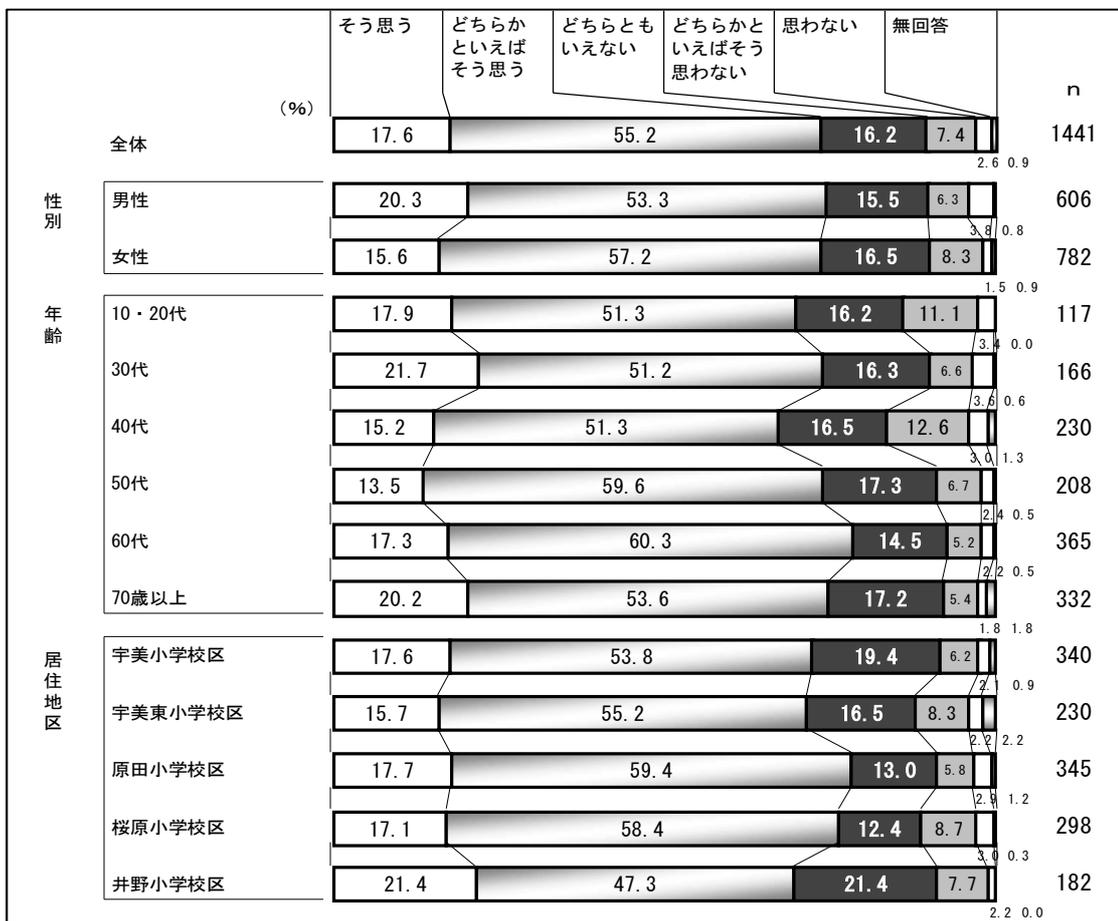
● “そう思う” が 72.9%、“そう思わない” が 10.1%。

宇美町は安全に暮らせるまちだと思うかについては、“そう思う”という人（「そう思う」17.6%と「どちらかといえばそう思う」55.2%の合計）が72.9%となっています。これに対し、“そう思わない”という人（「どちらかといえばそう思わない」7.4%と「思わない」2.6%の合計）は10.1%で、多くの町民が宇美町は安全に暮らせるまちだと思っていることがうかがえます。

属性別で“そう思う”という率をみると、性別では、大きな違いはみられず、年齢別では、60代（77.5%）で8割弱と高く、40代と10・20代（66.5%・69.2%）で7割に満たず低くなっています。

居住地区別では、原田小学校区と桜原小学校区（77.1%・75.5%）で高くなっています。[図表14参照]

図表14 宇美町は安全に暮らせるまちだと思うか（全体・性別・年齢・居住地区）



(2) 災害時の避難路・避難場所を知っているか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

②あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。

● 災害時の避難路・避難場所を知っている人は83.1%。

災害時の避難路・避難場所を知っているかについては、「知っている」と答えた人が83.1%、「知らない」と答えた人が16.1%となっています。[図表15参照]

前回の調査結果と比較すると、「知っている」という率が約8ポイント上昇しています。[下記【比較】参照]

属性別で「知っている」という率をみると、性別では、女性(85.4%)が男性(80.4%)を5ポイント上回っており、年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、60代で87.7%と高くなっています。[図表15参照]

【比較】

前回の調査結果

「知っている」が75.6%、「知らない」が23.2%。

図表15 災害時の避難路・避難場所を知っているか（全体・性別・年齢・居住地区）

		知っている	知らない	無回答	n
	(%)				
全体	(R3)	83.1	16.1		1441
全体	(H29)	75.6	23.2		496
性別	男性	80.4	19.0		606
	女性	85.4	13.8		782
年齢	10・20代	71.8	28.2		117
	30代	77.1	22.9		166
	40代	82.6	16.5		230
	50代	84.1	14.9		208
	60代	87.7	12.1		365
	70歳以上	85.2	13.0		332
居住地区	宇美小学校区	84.1	14.7		340
	宇美東小学校区	79.6	19.1		230
	原田小学校区	85.5	13.6		345
	桜原小学校区	84.2	15.8		298
	井野小学校区	81.9	17.6		182

(3) ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ③あなたは、あなたは、宇美町のハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがありますか。

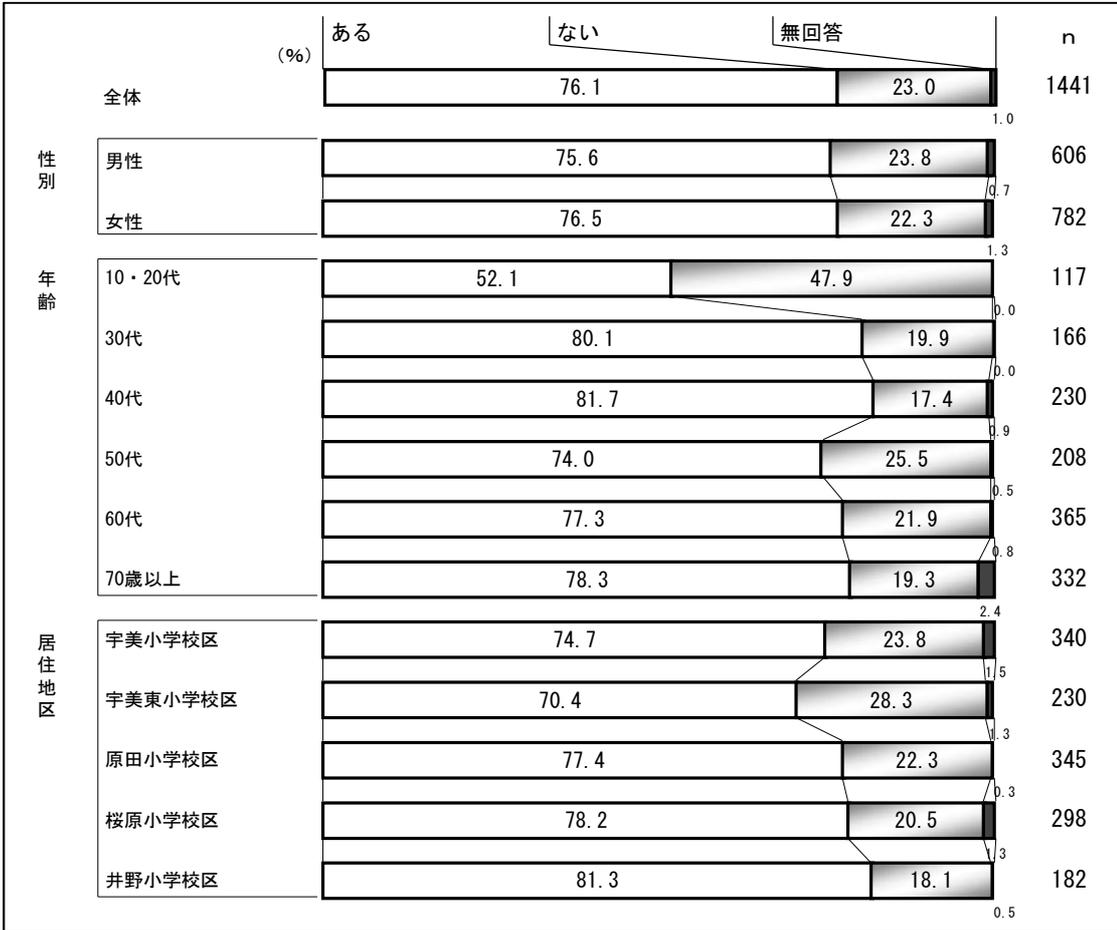
● ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがある人は76.1%。

ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるかについては、「ある」と答えた人が76.1%、「ない」と答えた人が23.0%となっています。

属性別で「ある」という率をみると、性別では、ほとんど違いはみられず、年齢別では、40代(81.7%)と30代(80.1%)で高く、10・20代(52.1%)で低くなっています。

居住地区別では、井野小学校区(81.3%)で高く、宇美東小学校区(70.4%)で低くなっています。[図表16参照]

図表16 ハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがあるか
 (全体・性別・年齢・居住地区)



(4) 健康増進のための取組をしているか

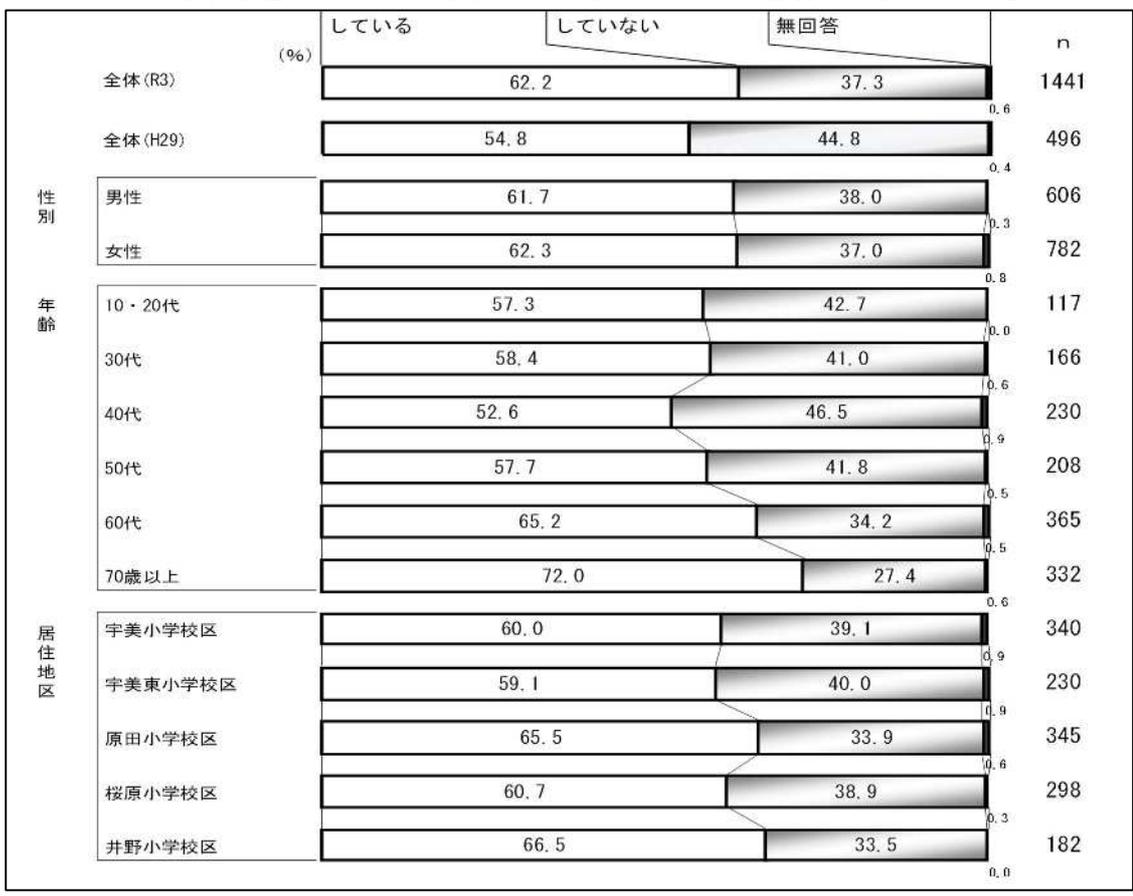
問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ④あなたは、日頃、健康増進のための取組（食生活の改善や運動など）をしていますか。

● 健康増進のための取組をしている人は62.2%。

健康増進のための取組をしているかについては、「している」と答えた人が62.2%、「していない」と答えた人が37.3%となっています。[図表17参照]
 前回の調査結果と比較すると、「している」という率が約7ポイント上昇し、健康増進のための取組をしている人が増えていることがうかがえます。[下記【比較】参照]
 属性別で「している」という率をみると、性別では、ほとんど違いはみられず、年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて上昇し、70歳以上(72.0%)で高く、40代(52.6%)で低くなっています。
 居住地区別では、井野小学校区(66.5%)と原田小学校区(65.5%)で高く、宇美東小学校区(59.1%)と宇美小学校区(60.0%)、桜原小学校区(60.7%)で低くなっています。[図表17参照]

【比較】
 前回の調査結果 「している」が54.8%、「していない」が44.8%。

図表17 健康増進のための取組をしているか（全体・性別・年齢・居住地区）



(5) 高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ⑤あなたは、宇美町が「高血圧ゼロのまち」に取り組んでいることを知っていますか。

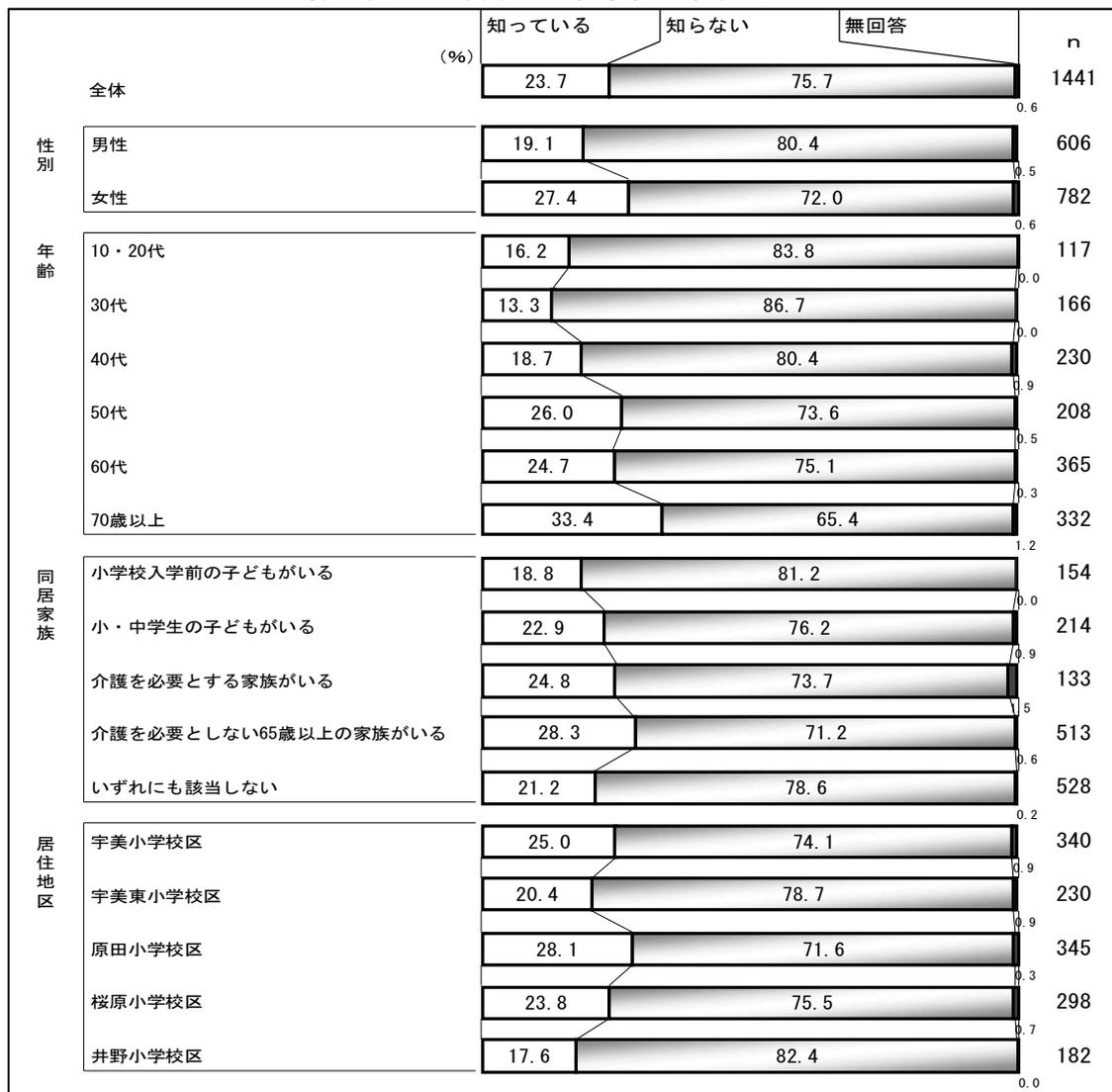
● 高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っている人は23.7%。

高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているかについては、「知っている」と答えた人が23.7%、「知らない」と答えた人が75.7%となっています。

属性別で「知っている」という率をみると、性別では、女性(27.4%)が男性(19.1%)を約8ポイント上回っており、年齢別では、70歳以上(33.4%)で高く、30代(13.3%)で低くなっています。

居住地区別では、原田小学校区(28.1%)で高く、井野小学校区(17.6%)で低くなっています。[図表18参照]

図表18 高血圧ゼロのまちに取り組んでいることを知っているか
 (全体・性別・年齢・同居家族・居住地区)



(6) 安心して子どもを産み育てることができると思うか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ⑥あなたは、宇美町は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思いますか。

● “そう思う”が51.8%、“そう思わない”が13.1%。

安心して子どもを産み育てることができるまちかについては、“そう思う”という人（「そう思う」10.1%と「どちらかといえばそう思う」41.8%との合計）が51.8%となっています。これに対し、“そう思わない”という人（「どちらかといえばそう思わない」8.9%と「思わない」4.2%の合計）は13.1%となっています。[図表19参照]

図表19 安心して子どもを産み育てることができると思うか
 (全体・性別・年齢・同居家族・居住地区)

		(%)					n	
		そう思う	どちらか といえ ば そう 思う	どちら とも いえ ない	どちら か とい え ば そ う 思 わ ない	思わ ない	無回 答	
全体		10.1	41.8		32.7	8.9	4.2 2.4	1441
性別	男性	10.7	42.2		32.3	8.4	4.6 1.7	606
	女性	9.6	41.7		33.0	8.8	3.8 3.1	782
年齢	10・20代	16.2	40.2		24.8	10.3	7.7 10.9	117
	30代	12.0	41.0		28.9	11.4	6.0 0.6	166
	40代	9.6	41.7		27.0	13.9	7.0 0.9	230
	50代	8.2	47.6		33.2	6.7	3.8 0.5	208
	60代	9.6	41.4		35.6	8.2	3.0 2.2	365
	70歳以上	9.0	38.9		38.9	6.6	4.8 2.1	332
同居家族	小学校入学前の子どもがいる	13.6	42.2		21.4	16.9	5.8 0.0	154
	小・中学生の子どもがいる	9.8	47.7		20.1	14.0	7.5 0.9	214
	介護を必要とする家族がいる	6.8	43.6		33.1	7.5	5.3 3.8	133
	介護を必要としない65歳以上の家族がいる	9.2	38.6		39.4	7.4	3.8 2.1	513
	いずれにも該当しない	10.6	43.9		32.2	6.6	4.0 2.7	528
居住地区	宇美小学校区	10.9	45.9		29.4	8.5	4.0 2.7	340
	宇美東小学校区	9.1	43.9		30.9	9.1	5.7 2.6 2.6	230
	原田小学校区	9.6	41.2		34.5	8.1	1.3	345
	桜原小学校区	10.1	40.6		31.5	9.4	3.8 2.9	298
	井野小学校区	11.5	35.2		39.6	7.1	2.7 4.4 2.2	182

(7) この1年間に生涯学習活動をしたか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

⑦あなたは、この1年間に、生涯学習活動（趣味や文化・スポーツ活動等）をしましたか。



● この1年間に生涯学習活動を“した”人は40.0%、ほとんどしなかった人は58.5%。

この1年間に生涯学習活動をしたかについては、“した”という人（「ほぼ毎日した」4.4%、「週に数回程度した」12.9%、「月に数回程度した」11.8%、「年に数回程度した」11.0%の合計）が40.0%となっています。これに対し、「ほとんどしなかった」という人は58.5%となっています。[図表20参照]

前回の調査結果と比較すると、“した”という率が約3ポイント増えている一方で「ほとんどしなかった」という率が約4ポイント増えています。どちらも大きくは変化していません。[下記【比較】参照]

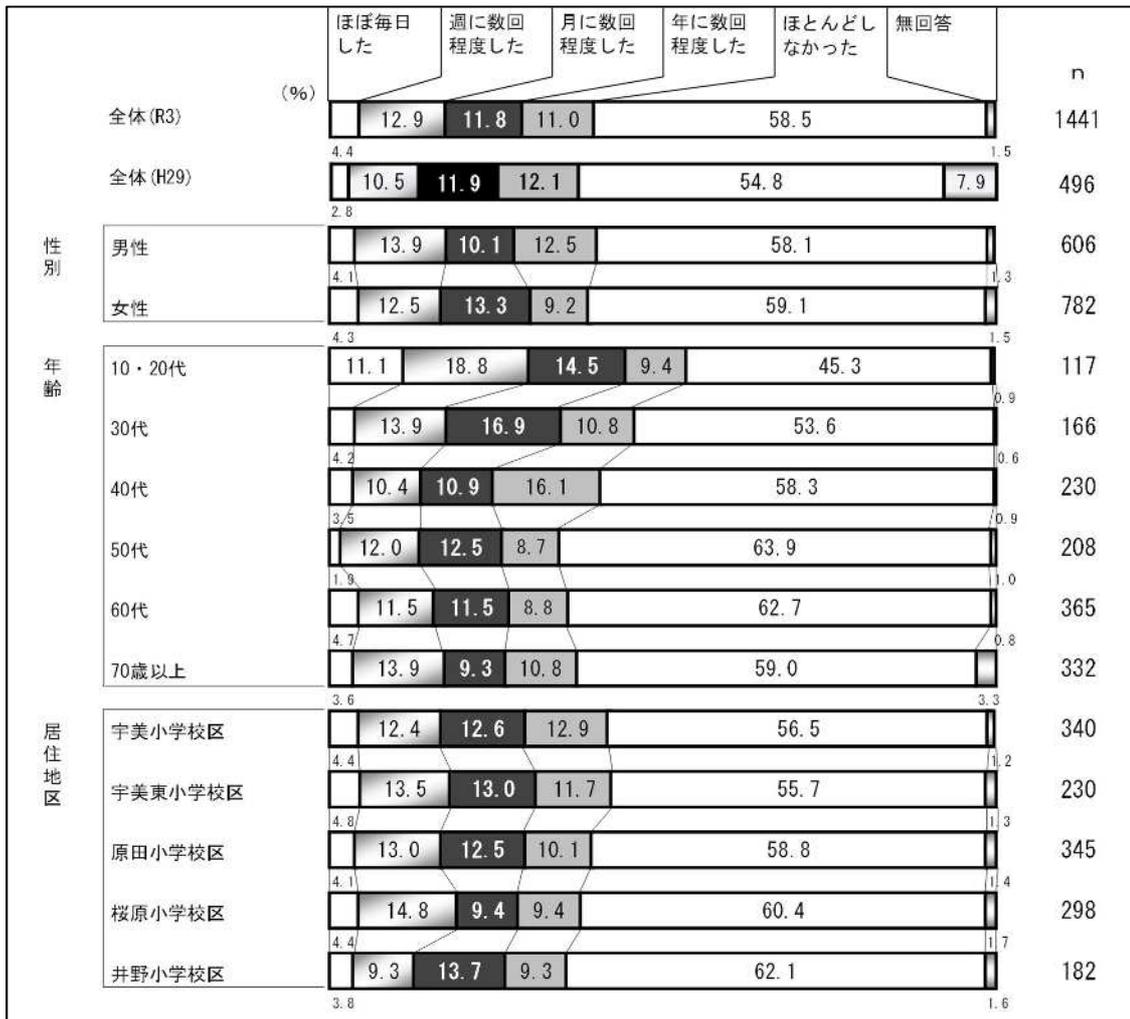
属性別で“した”という率をみると、性別では、ほとんど違いはみられず、年齢別では、10・20代（53.8%）で最も高く、次いで30代（45.8%）、40代（40.9%）と続いています。[図表20参照]

【比較】

前回の調査結果

“した”が37.3%、「ほとんどしなかった」が54.8%。

図表 20 この1年間に生涯学習活動をしたか（全体・性別・年齢・居住地区）



(8) 町内にある歴史文化遺産を誇りに思うか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

⑧あなたは、町内にある歴史文化遺産（遺跡・古墳・城跡など）を誇りに思いますか。

● “思う” が80.0%、“思わない” が19.2%。

町内にある歴史文化遺産を誇りに思うかについては、“思う”という人（「思う」36.6%と「どちらかといえば思う」43.4%の合計）が80.0%となっています。これに対し、“思わない”という人（「どちらかといえば思わない」12.6%と「思わない」6.7%の合計）は19.2%で、大部分の町民が本町の歴史文化遺産を誇りに思っていることがうかがえます。

属性別で“思う”という率をみると、性別では、大きな違いはみられず、年齢別では、50代以上（83.2%・83.3%・82.8%）で高くなっています。[図表21参照]

図表21 町内にある歴史文化遺産を誇りに思うか（全体・性別・年齢・居住地区）

		思う	どちらかとい えば思う	どちらかとい えば思わない	思わない	無回答	n
全体	(%)	36.6	43.4	12.6	6.7	0.8	1441
性別	男性	34.2	45.0	13.4	6.8	0.7	606
	女性	38.9	42.3	11.1	6.8	0.9	782
年齢	10・20代	30.8	43.6	12.8	12.8	0.0	117
	30代	30.1	45.2	13.9	10.8	0.0	166
	40代	32.6	42.2	15.2	9.1	0.9	230
	50代	37.5	45.7	9.6	6.3	0.0	208
	60代	38.4	44.9	12.1		4.4	365
	70歳以上	42.5	40.4	11.7		3.6	332
居住地区	宇美小学校区	37.1	45.6	10.6	6.2	0.6	340
	宇美東小学校区	32.2	45.2	12.6	9.1	0.9	230
	原田小学校区	37.4	41.2	14.5	5.5	1.4	345
	桜原小学校区	37.6	44.0	11.1	7.0	0.3	298
	井野小学校区	40.1	41.8	11.5	6.0	0.5	182

(9) 大野城跡が日本遺産に認定されていることを知っているか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ⑨あなたは、町内にある大野城跡が日本遺産「西の都」の構成文化財として認定されていることを知っていますか。

● “知っている”が26.3%、“知らない”が73.0%。

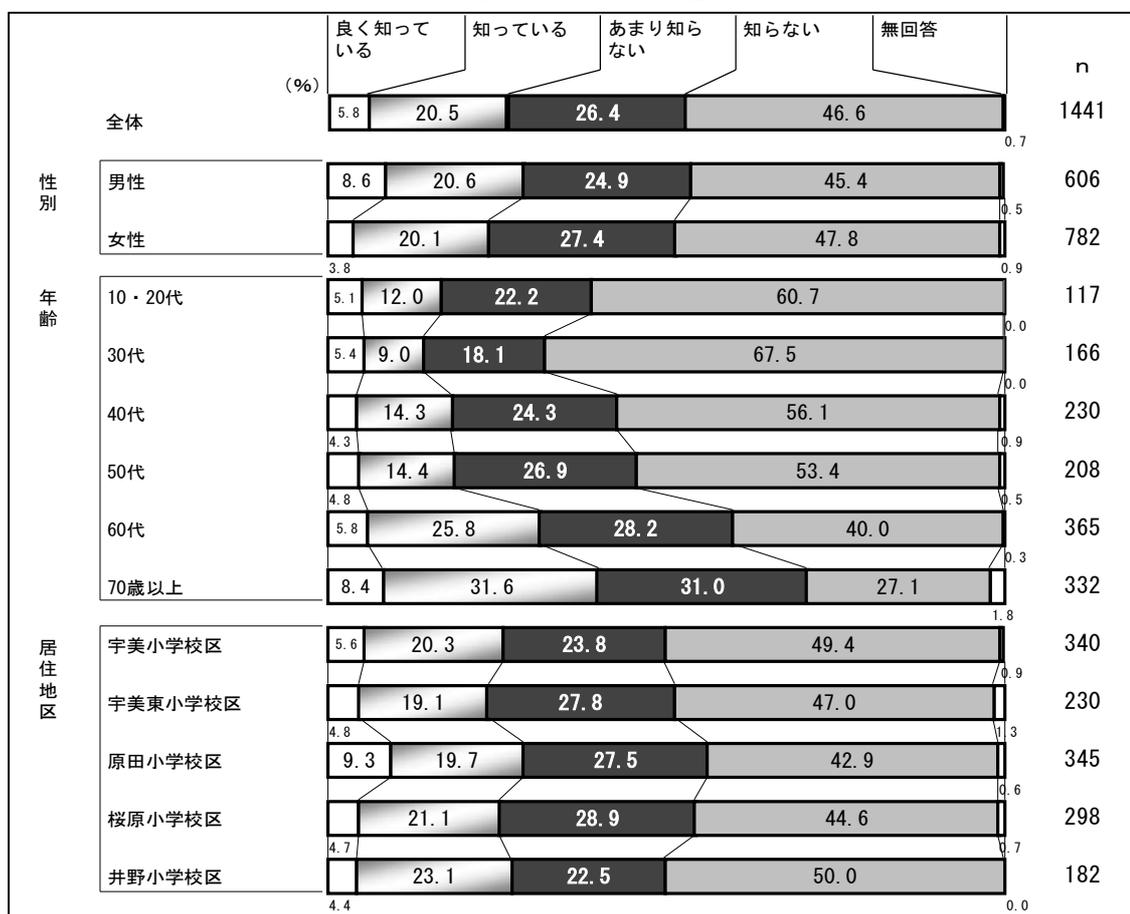
大野城跡が日本遺産に認定されていることについては、“知っている”という人（「良く知っている」5.8%と「知っている」20.5%の合計）が26.3%となっています。これに対し、“知らない”という人（「あまり知らない」26.4%と「知らない」46.6%の合計）が73.0%となっており、大野城跡が日本遺産に認定されていることは、町民にあまり知られていないことがうかがえます。

属性別で“知っている”という率をみると、性別では、男性（29.2%）が女性（23.9%）を約5ポイント上回っています。

年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、70歳以上（40.1%）で高く、30代（14.5%）で低くなっています。

居住地区別では、さほど大きな違いはみられませんが、原田小学校区（29.0%）でやや高くなっています。[図表22参照]

図表22 大野城跡が日本遺産に認定されていることを知っているか
 （全体・性別・年齢・居住地区）



(10) 宇美町電子図書館を利用できることを知っているか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ⑩あなたは、令和2年12月から宇美町電子図書館を利用できることを知っていますか。

● 宇美町電子図書館を利用できることを知っている人は20.0%。

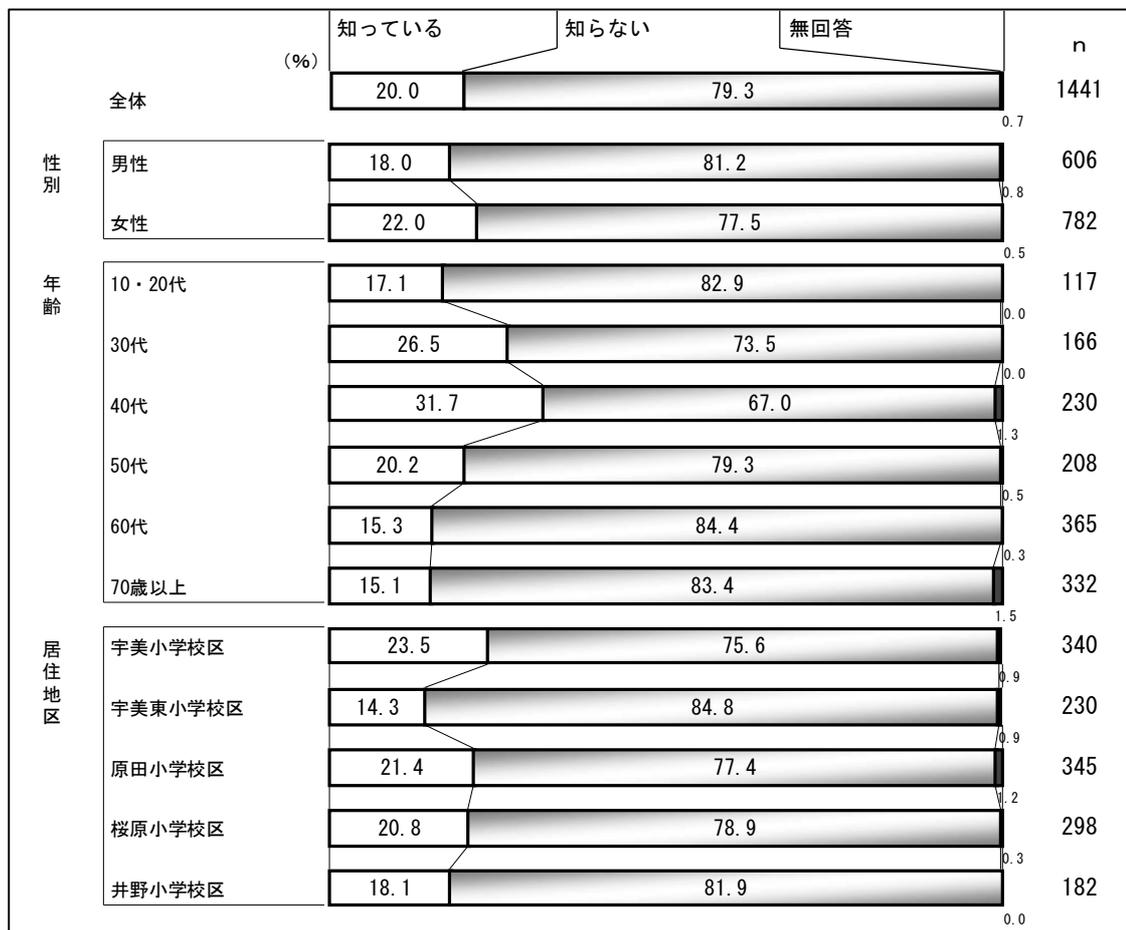
宇美町電子図書館を利用できることについては、「知っている」と答えた人が20.0%、「知らない」と答えた人が79.3%となっており、電子図書館の認知度は低いといえます。

属性別で「知っている」率をみると、性別では、女性（22.0%）が男性（18.0%）を4ポイント上回っています。

年齢別では、40代（31.7%）と30代（26.5%）で高く、10・20代（17.1%）や60代・70歳以上（15.3%・15.1%）で低くなっています。

居住地区別では、宇美小学校区（23.5%）で高く、宇美東小学校区（14.3%）で低くなっています。[図表23参照]

図表23 宇美町電子図書館を利用できることを知っているか
 （全体・性別・年齢・居住地区）



(11) 環境に配慮した生活をしているか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

①あなたは、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。

● 環境に配慮した生活をしている人は 69.3%。

環境に配慮した生活については、「している」と答えた人が 69.3%、「していない」と答えた人が 28.9%となっています。[図表 24 参照]

前回の調査結果と比較すると、「している」という率に大きな違いはみられず、環境に配慮した生活をしている町民の割合は変化していないことがうかがえます。[下記【比較】参照]

属性別で「している」という率をみると、性別では、女性(72.5%)が男性(65.8%)を約7ポイント上回り、年齢別では、60代(74.5%)と50代(71.2%)で高く、10・20代(58.1%)で低くなっています。

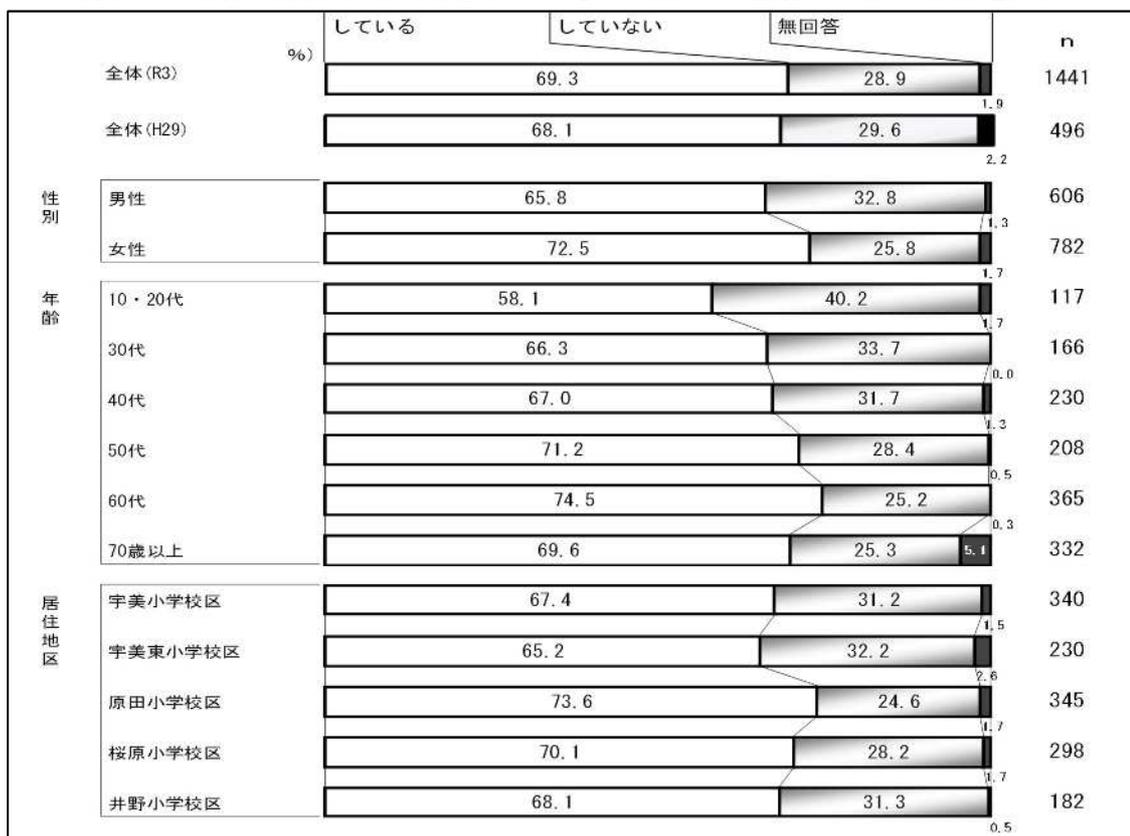
居住地区別では、原田小学校区(73.6%)で高く、宇美東小学校区(65.2%)で低くなっています。[図表 24 参照]

【比較】

前回の調査結果

「している」が 68.1%、「していない」が 29.6%。

図表 24 環境に配慮した生活をしているか（全体・性別・年齢・居住地区）



(12) 4 R運動をしているか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

⑫あなたは、ごみの減量化のため、4 R運動（リフューズ：発生回避、リデュース：排出抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化）をしていますか。

● 4 R運動をしている人は 79.1%。

4 R運動については、「している」と答えた人が 79.1%、「していない」と答えた人が 19.8%となっています。[図表 25 参照]

前回の調査結果と比較すると、「している」という率が約9ポイント上昇しており、この4年間で、4 R運動をしている人が増えていることがうかがえます。[下記【比較】参照]

属性別で「している」という率をみると、性別では、女性（80.9%）が男性（76.9%）を4ポイント上回り、年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて上昇していく傾向にあり、50代以上（81.7%・83.0%・81.0%）で高く、10・20代（68.4%）で低くなっています。

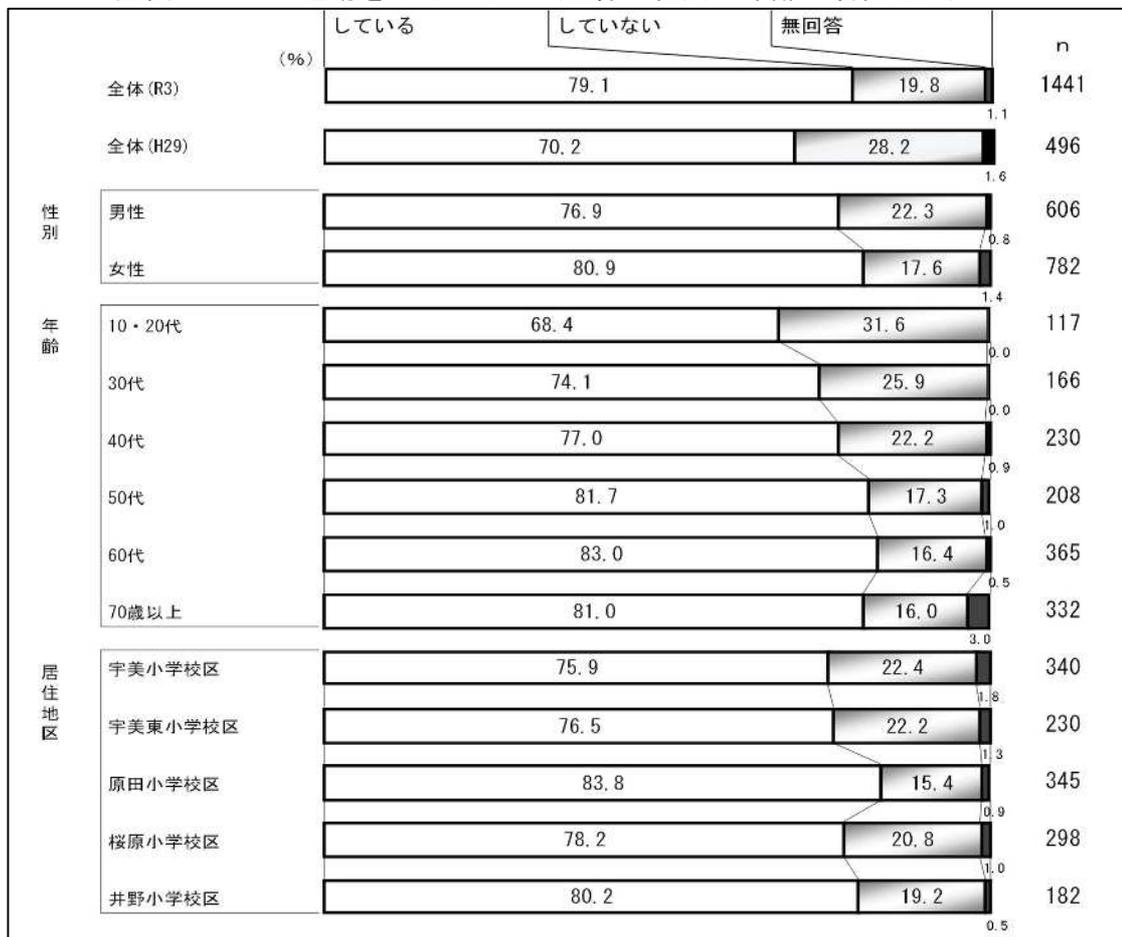
居住地区別では、原田小学校区（83.8%）で高くなっています。[図表 25 参照]

【比較】

前回の調査結果

「している」が 70.2%、「していない」が 28.2%。

図表 25 4 R運動をしているか（全体・性別・年齢・居住地区）



(13) 自然と共生する魅力あるまちづくりが行われているか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ⑬あなたは、宇美町では、自然と共生する魅力あるまちづくりが行われていると思いますか。

● “そう思う” が 43.1%、“そう思わない” が 16.0%。

自然と共生する魅力あるまちづくりが行われていると思うかについては、“そう思う”という人（「そう思う」6.5%と「どちらかといえばそう思う」36.6%の合計）が43.1%となっています。これに対し、“そう思わない”という人（「どちらかといえばそう思わない」10.9%と「思わない」5.1%の合計）は16.0%となっています。

属性別で“そう思う”という率をみると、性別では、大きな違いはみられず、年齢別では、10・20代と30代（49.6%・48.8%）で高くなっています。

居住地区別では、さほど大きな違いはみられませんが、桜原小学校区（48.0%）でやや高くなっています。[図表 26 参照]

図表 26 自然と共生する魅力あるまちづくりが行われているか（全体・性別・年齢・居住地区）

	(%)	そう思う	どちらか といえ ばそう 思う	どちらとも いえ ない	どちらか といえ ばそう 思わ ない	思わ ない	無回 答	n	
		6.5	36.6	40.2	10.9	5.1			
全体		6.5	36.6	40.2	10.9	5.1	0.8	1441	
性別	男性	7.8	34.7	40.1	10.7	6.3	0.5	606	
	女性	5.8	38.2	40.5	10.5	4.5	0.5	782	
年齢	10・20代	10.3	39.3	31.6	14.5	4.0	1.0	117	
	30代	7.8	41.0	34.3	10.2	6.6	0.0	166	
	40代	5.7	33.9	39.6	10.9	9.1	0.0	230	
	50代	5.3	37.0	42.8	10.6	0.9	0.5	208	
	60代	4.7	35.1	45.5	11.5	3.8	0.5	365	
	70歳以上	8.1	36.1	40.1	8.4	3.3	0.0	332	
居住地区	宇美小学校区	7.6	34.4	38.8	13.5	4.8	2.4	340	
	宇美東小学校区	6.5	37.8	37.8	9.6	7.4	4.4	1.2	230
	原田小学校区	6.7	33.9	44.9	9.9	0.9	0.9	345	
	桜原小学校区	6.0	41.9	36.9	10.1	3.8	0.9	298	
	井野小学校区	6.0	35.2	41.2	9.9	7.1	4.7	0.3	182

(14) 情報を得るために使っている手段

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

⑭あなたが町の情報を得るために使っている手段は次のどれですか。【複数回答】

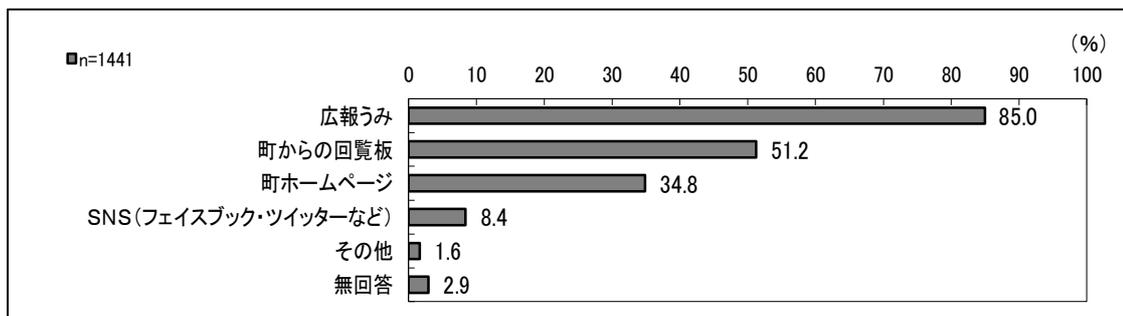
- 「広報うみ」が他を引き離して第1位、次いで「町からの回覧板」、「町ホームページ」の順。

町の情報を得るために使っている手段については、「広報うみ」(85.0%)が他を引き離して第1位となっており、9割近くの町民が広報紙から町の情報を入手していることがうかがえます。これ以外では、「町からの回覧板」(51.2%)、「町ホームページ」(34.8%)、「SNS(フェイスブック・ツイッターなど)」(8.4%)の順となっています。[図表27参照]

属性別で見ると、すべての属性で町全体と同様に「広報うみ」が第1位、ほとんどの属性で「町からの回覧板」が第2位となっていますが、10・20代～40代では「町ホームページ」が第2位となっており、40代以下の層では、広報紙に次いで、ホームページが町情報の入手手段となっていることがうかがえます。

また、10・20代では「SNS(フェイスブック・ツイッターなど)」(25.6%)が第3位で、他の属性と違った傾向を示しており、また、その比率をみると、およそ4人に1人がSNSを利用していることがわかります。[図表28参照]

図表27 情報を得るために使っている手段(全体/複数回答)



図表 28 情報を得るために使っている手段
 (全体・性別・年齢・居住地区－上位3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		広報うみ 85.0	町からの回覧板 51.2	町ホームページ 34.8
性別	男性	広報うみ 83.8	町からの回覧板 51.7	町ホームページ 33.0
	女性	広報うみ 85.9	町からの回覧板 51.4	町ホームページ 37.0
年齢	10・20代	広報うみ 64.1	町ホームページ 33.3	SNS (フェイスブック・ ツイッターなど) 25.6
	30代	広報うみ 79.5	町ホームページ 47.0	町からの回覧板 38.6
	40代	広報うみ 77.4	町ホームページ 47.4	町からの回覧板 43.0
	50代	広報うみ 84.1	町からの回覧板 49.0	町ホームページ 43.8
	60代	広報うみ 93.2	町からの回覧板 62.2	町ホームページ 32.3
	70歳以上	広報うみ 91.9	町からの回覧板 63.6	町ホームページ 18.1
居住地区	宇美小学校区	広報うみ 84.1	町からの回覧板 46.5	町ホームページ 33.2
	宇美東小学校区	広報うみ 85.2	町からの回覧板 52.6	町ホームページ 30.0
	原田小学校区	広報うみ 86.1	町からの回覧板 52.5	町ホームページ 35.9
	桜原小学校区	広報うみ 86.6	町からの回覧板 54.7	町ホームページ 36.6
	井野小学校区	広報うみ 84.6	町からの回覧板 53.8	町ホームページ 38.5

(15) 今後の宇美町職員に特に求めるもの

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
⑮あなたが今後の宇美町職員に特に求めるものは何ですか。【複数回答】

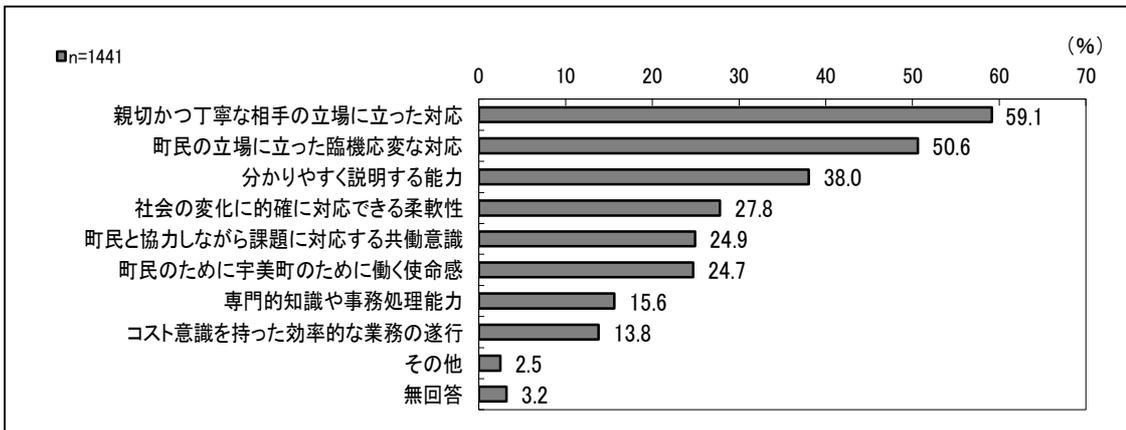
● 「親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応」、「町民の立場に立った臨機応変な対応」、「分かりやすく説明する能力」の順。

今後の宇美町職員に特に求めるものについては、「親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応」(59.1%)が第1位、「町民の立場に立った臨機応変な対応」(50.6%)が第2位、「分かりやすく説明する能力」(38.0%)が第3位で、これらは以下をやや引き離して代表的な要望となっています。

これら以外では、「社会の変化に的確に対応できる柔軟性」(27.8%)、「町民と協力しながら課題に対応する共働意識」(24.9%)、「町民のために宇美町のために働く使命感」(24.7%)などの順となっています。[図表 29 参照]

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応」が第1位、「町民の立場に立った臨機応変な対応」が第2位で、ほとんど違いはみられず、性別や年齢、居住地区にかかわらず、“親切・丁寧さ”と“臨機応変さ”が求められていることがうかがえます。[図表 30 参照]

図表 29 今後の宇美町職員に特に求めるもの（全体／複数回答）



図表 30 今後の宇美町職員に特に求めるもの
 (全体・性別・年齢・居住地区—上位3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 59.1	町民の立場に立った臨機応変な対応 50.6	分かりやすく説明する能力 38.0
性別	男性	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 56.3	町民の立場に立った臨機応変な対応 49.3	分かりやすく説明する能力 34.3
	女性	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 62.5	町民の立場に立った臨機応変な対応 52.0	分かりやすく説明する能力 41.2
年齢	10・20代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 54.7	町民の立場に立った臨機応変な対応 45.3	社会の変化に的確に対応できる柔軟性 34.2
	30代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 63.9	町民の立場に立った臨機応変な対応 47.6	分かりやすく説明する能力 36.7
	40代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 54.3	町民の立場に立った臨機応変な対応 47.8	分かりやすく説明する能力／社会の変化に的確に対応できる柔軟性 36.5
	50代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 60.1	町民の立場に立った臨機応変な対応 44.7	分かりやすく説明する能力 36.5
	60代	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 61.1	町民の立場に立った臨機応変な対応 55.3	分かりやすく説明する能力 40.0
	70歳以上	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 59.6	町民の立場に立った臨機応変な対応 54.2	分かりやすく説明する能力 41.0
居住地区	宇美小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 57.4	町民の立場に立った臨機応変な対応 50.9	分かりやすく説明する能力 39.7
	宇美東小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 61.7	町民の立場に立った臨機応変な対応 54.3	分かりやすく説明する能力 39.6
	原田小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 60.0	町民の立場に立った臨機応変な対応 50.4	分かりやすく説明する能力 34.5
	桜原小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 60.7	町民の立場に立った臨機応変な対応 48.0	分かりやすく説明する能力 37.6
	井野小学校区	親切かつ丁寧な相手の立場に立った対応 53.3	町民の立場に立った臨機応変な対応 50.0	分かりやすく説明する能力 39.0

(16) 公共施設の更新問題を知っているか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ⑩あなたは、「公共施設の更新問題（老朽化問題）」を知っていますか。

● 公共施設の更新問題を知っている人は 23.9%。

公共施設の更新問題を知っているかについては、「知っている」と答えた人が 23.9%、「なんとなく聞いたことがある」と答えた人が 30.9%、「知らない」と答えた人が 42.6%となっており、認知度が低いことがうかがえます。

属性別で「知っている」という率をみると、性別では、男性(27.8%)が女性(21.1%)を約7ポイント上回り、年齢別では、60代(29.6%)で高く、10・20代(16.2%)と30代(19.9%)で低くなっています。

居住地区別では、井野小学校区(30.8%)と原田小学校区(28.7%)で高く、宇美小学校区(18.2%)で低くなっています。[図表 31 参照]

図表 31 公共施設の更新問題を知っているか（全体・性別・年齢・居住地区）

		知っている	なんとなく聞いたことがある	知らない	無回答	n
全体	(%)	23.9	30.9	42.6	2.6	1441
性別	男性	27.6	28.1	41.7	2.6	606
	女性	21.1	33.1	43.4	2.4	782
年齢	10・20代	16.2	25.6	58.1	0.0	117
	30代	19.9	22.3	54.2	3.6	166
	40代	23.9	33.5	41.3	1.3	230
	50代	21.6	28.8	47.6	1.9	208
	60代	29.6	32.3	36.7	1.4	365
	70歳以上	24.1	34.9	35.8	5.1	332
	居住地区	宇美小学校区	18.2	33.2	46.2	2.4
	宇美東小学校区	20.9	31.7	46.5	0.9	230
	原田小学校区	28.7	31.0	38.3	2.0	345
	桜原小学校区	23.2	31.2	42.3	3.4	298
	井野小学校区	30.8	25.3	39.6	4.4	182

(17) 議会審議の動画を見たいか

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。
 ⑰あなたは、議会審議の様子が動画で配信される場合、スマートフォン・パソコンで見たいと思いますか。

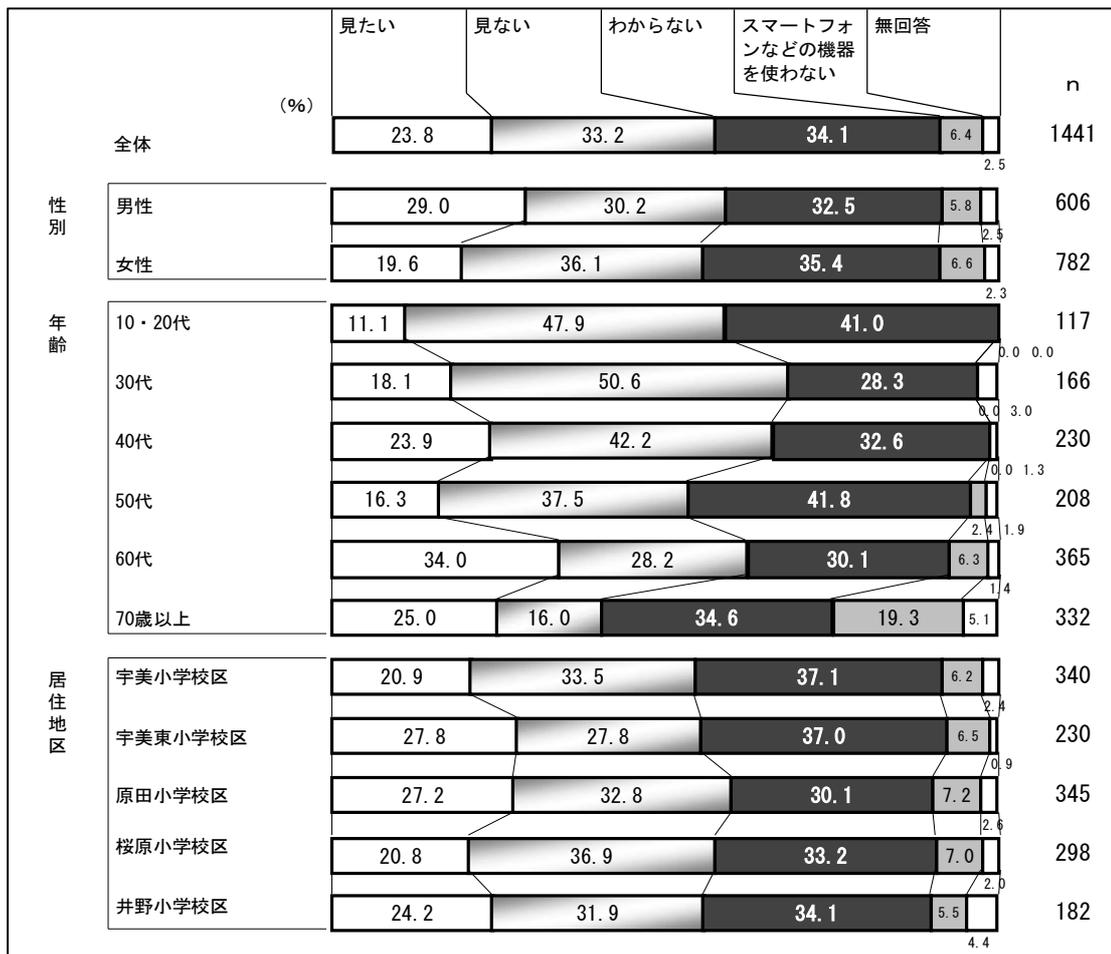
● 議会審議の動画を見たい人は23.8%。

議会審議の動画を見たいかについては、「見たい」と答えた人が23.8%、「見ない」と答えた人が33.2%、「わからない」という人が34.1%、「スマートフォンなどの機器を使わない」という人が6.4%となっています。

属性別で「見たい」という率をみると、性別では、男性(29.0%)が女性(19.6%)を約9ポイント上回り、年齢別では、60代(34.0%)、70歳以上(25.0%)、40代(23.9%)で高くなっています。

居住地区別では、宇美東小学校区(27.8%)と原田小学校区(27.2%)で高くなっています。[図表32参照]

図表32 議会審議の動画を見たいか(全体・性別・年齢・居住地区)



4 地域コミュニティ・共働について

(1) 地域活動への参加状況と参加意向

問8 あなたの現在の地域コミュニティ活動・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。

- 現在“参加している”が18.3%、“参加していない”が73.8%。
- 今後“参加したい”が34.6%、“参加するつもりはない”が57.5%。

地域活動について、現在の参加状況を見ると、“参加している”という人（「現在参加しており今後も参加したい」14.0%と「参加しているが今後は参加するつもりはない」4.3%の合計）が18.3%となっており、一方、“参加していない”という人（「現在参加していないが今後は参加したい」20.5%と「参加しておらず今後も参加するつもりはない」53.2%の合計）が73.8%となっています。

また、今後の参加意向をみると、“参加したい”という人（現在参加しており今後も参加したい14.0%と「現在参加していないが今後は参加したい」20.5%の合計）が34.6%となっており、一方、“参加するつもりはない”という人（「参加しているが今後は参加するつもりはない」4.3%と「参加しておらず今後も参加するつもりはない」53.2%の合計）が57.5%となっています。[図表 33 参照]

前回の調査結果と比較すると、現在の参加状況については、“参加している”という率が約4ポイント低下していますが、大きな差はありません。また、今後の参加意向については、“参加したい”という率が約6ポイント低下しており、参加意向がやや弱まっていることがうかがえます。[下記【比較】参照]

属性別で今後の参加意向をみると、“参加したい”という率は、性別では、男性（39.4%）が女性（30.6%）を約9ポイント上回っており、年齢別では、60代（39.2%）と70歳以上（37.0%）で高くなっています。

同居家族別では、大きな違いはみられませんが、小学校入学前の子どもがいる人（39.0%）と介護を必要としない65歳以上の家族がいる人（37.4%）でやや高くなっています。

居住地区別では、桜原小学校区（39.9%）で最も高くなっています。[図表 33 参照]

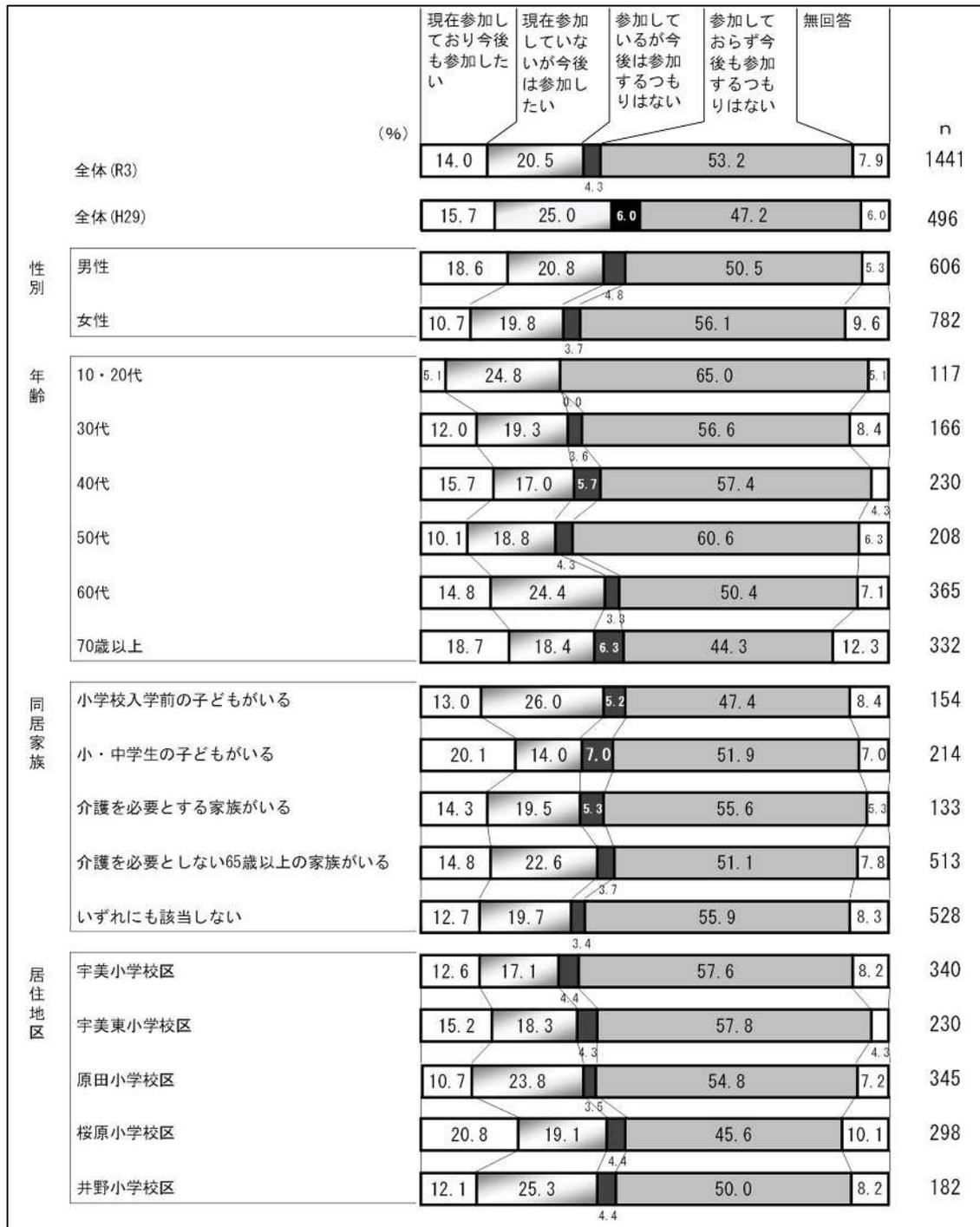
【比較】

前回の調査結果

現在“参加している”が21.8%、“参加していない”が72.2%。

今後“参加したい”が40.7%、“参加するつもりはない”が53.2%。

図表 33 地域活動への参加状況と参加意向（全体・性別・年齢・同居家族・居住地区）



(2) 今後参加したい地域活動等

※問8で「1.」または「2.」に○をつけた方にうかがいます。
 問8-2 あなたは、今後(今後とも)どのような地域コミュニティ活動・ボランティア活動に参加したいと思いますか。【複数回答】

- 「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」、「子育て支援に関する活動」、「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」の順。

問8で“参加したい”と答えた498人(全体の34.5%)に、今後参加したい地域活動等をたずねたところ、「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」(28.5%)が第1位、「子育て支援に関する活動」(24.3%)が第2位、「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」(21.5%)が第3位となっており、“環境保全”や“子育て支援”“地域自治”に関する活動に参加したいという人が多くなっています。[図表34参照]

前回の調査結果と比較すると、前回第1位の「老人クラブや婦人会などを通じた活動」は第6位に、前回第2位の「緑化や花づくりに関する活動」は第4位に順位を下げ、今回は、前回第5位の「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」が第1位、前回第7位の「子育て支援に関する活動」が第2位に順位を上げるなど、参加したい活動が大きく変化してきていることがうかがえます。[下記【比較】参照]

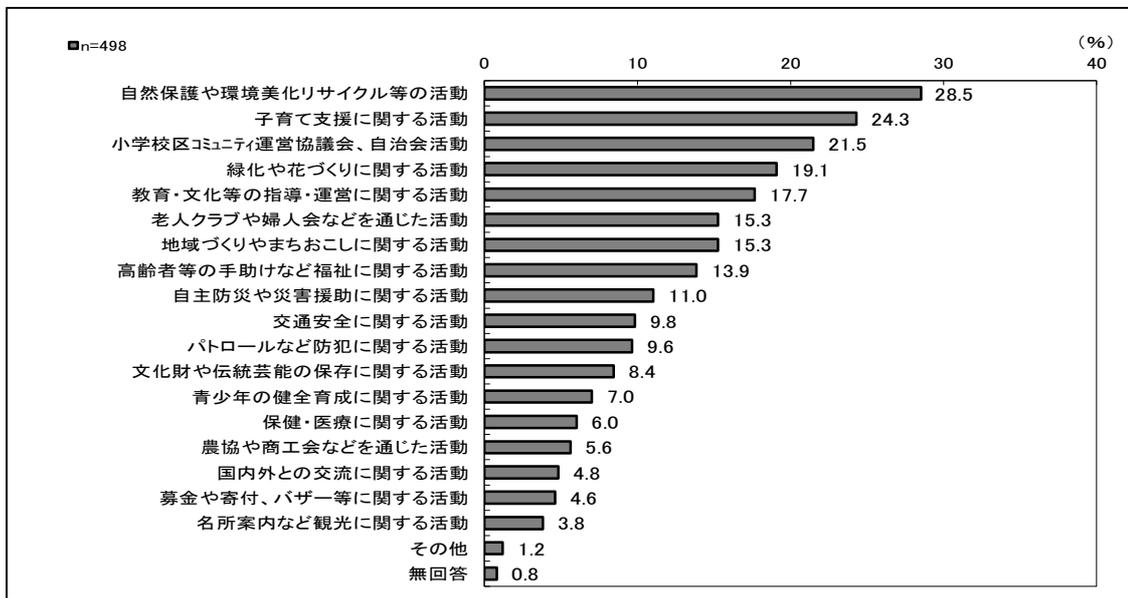
属性別でみると、多くの属性で町全体と同様に「自然保護や環境美化、リサイクル等の活動」が第1位となっていますが、女性や30代~50代、宇美小学校区、桜原小学校区では「子育て支援に関する活動」、50代では「教育・文化等の指導・運営に関する活動」、70歳以上では「老人クラブや婦人会などを通じた活動」、宇美小学校区では「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」が第1位(同率含む)で、性別や年齢、居住地区によって最も参加したい活動に違いがみられます。[図表35参照]

【比較】

前回の調査結果

「老人クラブや婦人会などを通じた活動」、「緑化や花づくりに関する活動」、「小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動」の順。

図表34 今後参加したい地域活動等(全体/複数回答)



図表 35 今後参加したい地域活動等
(全体・性別・年齢・居住地区－上位3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 28.5	子育て支援に関する活動 24.3	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 21.5
性別	男性	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 30.1	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 25.5	教育・文化等の指導・運営に関する活動 20.1
	女性	子育て支援に関する活動 34.7	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 27.2	緑化や花づくりに関する活動 22.2
年齢	10・20代	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 37.1	子育て支援に関する活動／緑化や花づくりに関する活動／教育・文化等の指導・運営に関する活動 28.6	
	30代	子育て支援に関する活動 50.0	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 34.6	教育・文化等の指導・運営に関する活動 25.0
	40代	子育て支援に関する活動 41.3	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動／教育・文化等の指導・運営に関する活動 28.0	
	50代	子育て支援に関する活動／教育・文化等の指導・運営に関する活動 25.0	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動／地域づくりやまちおこしに関する活動 23.3	
	60代	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 35.7	緑化や花づくりに関する活動 22.4	子育て支援に関する活動／高齢者等の手助けなど福祉に関する活動 18.2
	70歳以上	老人クラブや婦人会などを通じた活動 37.4	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 29.3	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 22.8
居住地区	宇美小学校区	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動／子育て支援に関する活動／小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 27.7		
	宇美東小学校区	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 35.1	子育て支援に関する活動／老人クラブや婦人会などを通じた活動 22.1	
	原田小学校区	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 28.6	緑化や花づくりに関する活動 24.4	教育・文化等の指導・運営に関する活動 21.0
	桜原小学校区	子育て支援に関する活動 28.6	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 26.1	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 22.7
	井野小学校区	自然保護や環境美化、リサイクル等の活動 32.4	小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動 25.0	子育て支援に関する活動／高齢者等の手助けなど福祉に関する活動 20.6

(3) 今後参加しない理由

※問8で「3.」または「4.」に○をつけた方にかがいます。
問8-3 今後（今後とも）参加しない理由は何ですか。【複数回答】

- 「仕事で時間がとれない」が他を引き離して第1位。次いで「他にすることがある」、「興味が持てない」の順。

問8で「参加するつもりはない」と答えた829人（全体の57.5%）に、今後参加しない理由をたずねたところ、「仕事で時間がとれない」（47.5%）が他を引き離して第1位となっています。これ以外では、「他にすることがある」（30.0%）、「興味が持てない」（27.4%）などの順となっています。[図表36参照]

前回の調査結果と比較すると、ほぼ同様の結果となっており、大きな変化はみられません。[下記【比較】参照]

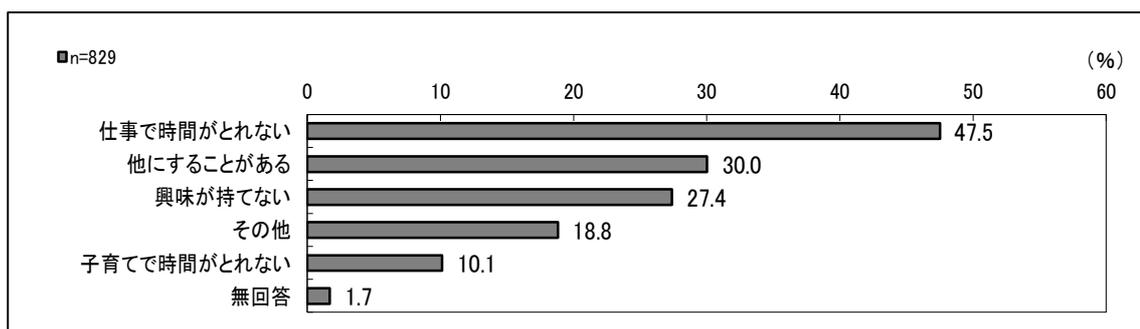
属性別でみると、ほとんどの属性で町全体と同様に「仕事で時間がとれない」が第1位となっていますが、10・20代や60代、70歳以上では「他にすることがある」、小学校入学前の子どもがいる人では「子育てで時間がとれない」が第1位となっています。[図表37参照]

【比較】

前回の調査結果

「仕事で時間がとれない」、「他にすることがある」、「興味が持てない」の順。

図表36 今後参加しない主な理由（全体／複数回答）



図表 37 今後参加しない理由

(全体・性別・年齢・同居家族・居住地区－上位3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		仕事で時間がとれない 47.5	他にすることがある 30.0	興味が持てない 27.4
性別	男性	仕事で時間がとれない 54.6	他にすることがある 26.6	興味が持てない 26.0
	女性	仕事で時間がとれない 42.7	他にすることがある 32.1	興味が持てない 28.0
年齢	10・20代	他にすることがある 47.4	仕事で時間がとれない 43.4	興味が持てない 30.3
	30代	仕事で時間がとれない 73.0	子育てで時間がとれない 38.0	興味が持てない 23.0
	40代	仕事で時間がとれない 66.9	興味が持てない 27.6	他にすることがある 26.2
	50代	仕事で時間がとれない 69.6	他にすることがある 23.7	興味が持てない 23.0
	60代	他にすることがある 36.2	仕事で時間がとれない 35.2	興味が持てない 29.6
	70歳以上	他にすることがある 30.4	興味が持てない 29.8	仕事で時間がとれない 14.3
同居家族	小学校入学前の子どもがいる	子育てで時間がとれない 67.9	仕事で時間がとれない 65.4	興味が持てない 14.8
	小・中学生の子どもがいる	仕事で時間がとれない 65.9	子育てで時間がとれない 37.3	他にすることがある 27.0
	介護を必要とする家族がいる	仕事で時間がとれない 42.0	他にすることがある 38.3	興味が持てない 28.4
	介護を必要としない65歳以上の家族がいる	仕事で時間がとれない 42.0	他にすることがある 30.6	興味が持てない 27.8
	いずれにも該当しない	仕事で時間がとれない 45.7	他にすることがある 31.6	興味が持てない 30.0
居住地区	宇美小学校区	仕事で時間がとれない 55.9	他にすることがある 24.2	興味が持てない 21.8
	宇美東小学校区	仕事で時間がとれない 45.5	他にすることがある 30.1	興味が持てない 23.8
	原田小学校区	仕事で時間がとれない 42.8	他にすることがある 35.3	興味が持てない 34.3
	桜原小学校区	仕事で時間がとれない 43.0	興味が持てない／他にすることがある 30.9	
	井野小学校区	仕事で時間がとれない 48.5	他にすることがある 32.3	興味が持てない 24.2

(4) 共働のまちづくりを進めるために必要なこと

問9 宇美町では、町民の皆様と行政が、お互いの立場を尊重しながら協力・連携する関係のみならず、共働のパートナーという対等な関係で、より豊かなまちづくりを実現するために取り組んでいます。
この「共働のまちづくり」を進めるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。【複数回答】

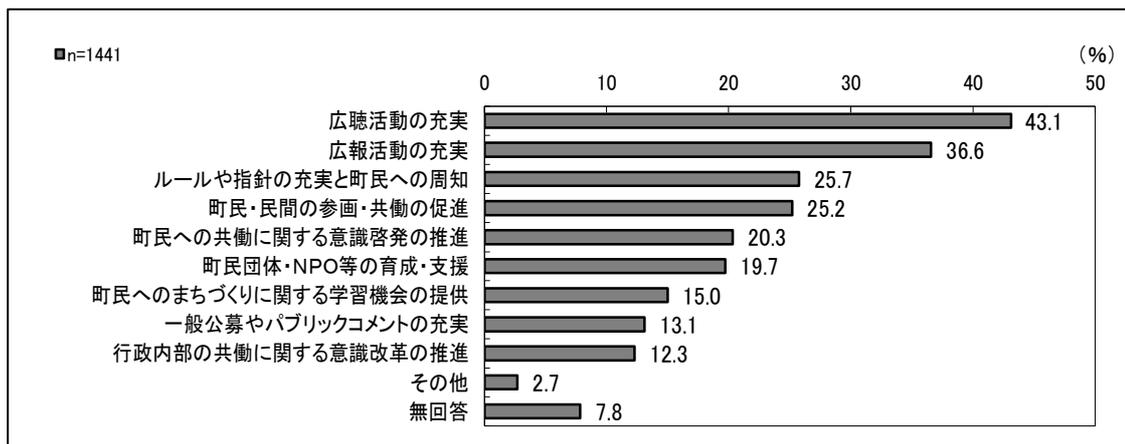
- 「広聴活動の充実」と「広報活動の充実」が他を引き離して第1・2位を占める。

共働のまちづくりを進めるために必要なことについては、「広聴活動の充実」(43.1%)と「広報活動の充実」(36.6%)が他を引き離して第1・2位を占める結果となっており、“町民の意見や要望を聞く機会の充実”と“行政情報の提供・公開”が特に重視されています。

これら以外では、「ルールや指針の充実と町民への周知」(25.7%)、「町民・民間の参画・共働の促進」(25.2%)、「町民への共働に関する意識啓発の推進」(20.3%)、「町民団体・NPO等の育成・支援」(19.7%)などの順となっています。[図表 38 参照]

属性別でみると、すべての属性で町全体と同様に「広聴活動の充実」と「広報活動の充実」が第1・2位を占め、ほとんど同様の結果となっており、性別や年齢、居住地区に関わらず、“町民の意見や要望を聞く機会の充実”と“行政情報の提供・公開”が特に重視されていることがうかがえます。[図表 39 参照]

図表 38 共働のまちづくりを進めるために必要なこと (全体/複数回答)



図表 39 共働のまちづくりを進めるために必要なこと
 (全体・性別・年齢・居住地区－上位3位／複数回答)

(単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体		広聴活動の充実 43.1	広報活動の充実 36.6	ルールや指針の充実と町民への周知 25.7
性別	男性	広聴活動の充実 41.9	広報活動の充実 38.8	ルールや指針の充実と町民への周知 29.5
	女性	広聴活動の充実 43.5	広報活動の充実 34.9	町民・民間の参画・共働の促進 23.9
年齢	10・20代	広聴活動の充実 45.3	広報活動の充実 34.2	ルールや指針の充実と町民への周知 32.5
	30代	広聴活動の充実 39.8	広報活動の充実 31.3	ルールや指針の充実と町民への周知／町民・民間の参画・共働の促進 27.7
	40代	広聴活動の充実 43.9	広報活動の充実 31.3	町民・民間の参画・共働の促進 29.1
	50代	広聴活動の充実 42.3	広報活動の充実 36.1	ルールや指針の充実と町民への周知 26.0
	60代	広聴活動の充実 46.0	広報活動の充実 39.2	町民・民間の参画・共働の促進 23.8
	70歳以上	広聴活動の充実／広報活動の充実 40.7		ルールや指針の充実と町民への周知 23.8
居住地区	宇美小学校区	広聴活動の充実／広報活動の充実 40.9		ルールや指針の充実と町民への周知 26.2
	宇美東小学校区	広聴活動の充実 44.3	広報活動の充実 39.1	町民・民間の参画・共働の促進 26.5
	原田小学校区	広聴活動の充実 45.8	広報活動の充実 33.0	ルールや指針の充実と町民への周知 26.1
	桜原小学校区	広聴活動の充実 41.3	広報活動の充実 33.2	町民・民間の参画・共働の促進 25.5
	井野小学校区	広聴活動の充実 41.8	広報活動の充実 34.6	ルールや指針の充実と町民への周知 28.6

5 幸福実感について

(1) 幸福実感について

問10 現在、あなたは実感としてどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ選び、○で囲んでください。

● 「8点」、「7点」・「5点」の順で、平均点は6.91点。

現在の幸福実感について、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として点数づけをしてもらいました。

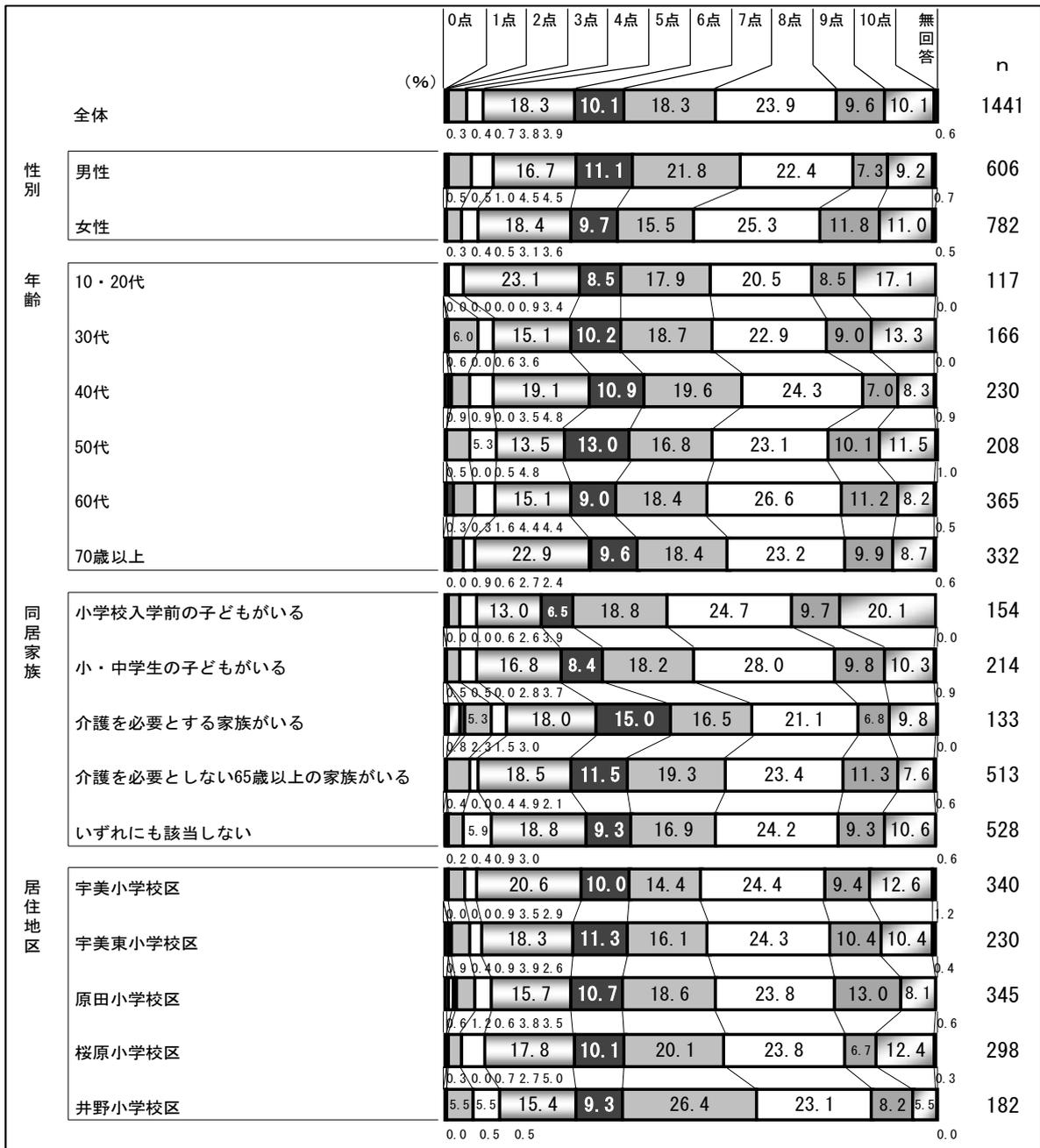
その結果、「8点」と答えた人が23.9%で最も多く、次いで「7点」と「5点」が同率で18.3%、「6点」と「10点」が同率で10.1%、「9点」が9.6%、「4点」が3.9%、「3点」が3.8%、「2点」が0.7%、「1点」が0.4%、「0点」が0.3%となっており、全体の平均点を求めると、6.91点となっています。[図表40参照]

福岡県が令和2年度に実施した県民意識調査(18歳以上の県民4,000人を対象に郵送法で実施、有効回収数1,902、有効回収率47.6%)の結果と比較すると、本町の幸福実感の平均点は、福岡県平均を0.22点上回っているほか、この調査の地域別結果(北九州地域、福岡地域、筑豊地域、筑後地域の4地域に区分されている)で最も高かった福岡地域平均も0.11点上回っています。[下記【比較】参照]

【比較】

令和2年度福岡県県民意識調査 幸福実感の平均点は、福岡県全体で6.69点、福岡地域で6.80点(北九州地域で6.60点、筑豊地域で6.58点、筑後地域で6.54点)。

図表 40 幸福実感について（全体・性別・年齢・居住地区）





宇美町

まちづくりに関する

町民意識調査

ご協力のおねがい



宇美町の
未来のため、
ご協力をおねがい
します。



町民の皆さまには、日頃から町政に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、宇美町では、今後のまちづくりを進めるための指針となる第7次宇美町総合計画（令和5年度～令和12年度の8年間の計画）を策定することになりました。

本調査は、この計画の策定にあたり、町民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、これからのまちづくりを考える貴重な資料とするために実施するもので、18歳以上の町民の中から、3,000名を無作為に抽出したところ、あなたにお答え願うことになりました。

この調査は、統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはなく、ご迷惑をおかけすることはありません。

ご多用のところ恐縮ですが、今後のまちづくりを、皆さまとともに考えていきたいと思っておりますので、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和3年10月 宇美町長 木原 忠



みんなで
宇美町のことを
考えてみましょう。

- お問合せ先 -

宇美町役場 まちづくり課

TEL : 092-934-2370

FAX : 092-934-2371

E-mail : machidukuri@town.umi.lg.jp

ご記入にあたって…

1. 宛名のご本人がお答えください。
2. お答えは、設問ごとに（1つに○印）、（2つまで○印）など、それぞれ指定していますので、お間違えないようご注意ください。また、○印は番号を囲むように濃くつけてください。
3. ご記入いただいた調査票は、**10月20日（水）まで**に同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにそのままポストに投函してください。

はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたご自身のことについて、さしつかえない範囲で、それぞれの項目ごとに
あてはまる番号を選んで○印をつけてください。

(1) あなたの性別 (1つに○印)	1. 男性	2. 女性
(2) あなたの年齢 (1つに○印)	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代	5. 50代 6. 60代 7. 70歳以上
(3) あなたの職業 (主たるもの1つに○印)	1. 農林水産業 (家族従事者を含む) 2. 自営業・自由業 (家族従事者を含む) 3. 企業、役所、団体などの 正規職員	4. パート、アルバイト、契 約社員、派遣社員など 5. 専業主婦・主夫 6. 学生 7. 無職(定年退職を含む) 8. その他 (具体的に：)
(4) あなたの家族 (あてはまるもの すべてに○印)	1. 小学校入学前の子どもがいる 2. 小・中学生の子どもがいる 3. 介護を必要とする家族がいる 4. 介護を必要としない65歳以上の家族がいる 5. いずれにも該当しない	
(5) あなたのお住まい の地区 (1つに○印)	1. 宇美小学校区 2. 宇美東小学校区 3. 原田小学校区	4. 桜原小学校区 5. 井野小学校区

まちへの愛着度と定住意向などについておたずねします。

問2 あなたは、宇美町に対して「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていま
すか。(1つに○印)

<p>1. とても愛着を感じている</p> <p>2. どちらかという愛着を感じている</p> <p>3. どちらともいえない</p> <p>4. あまり愛着を感じていない</p> <p>5. 愛着を感じていない</p>
--

問3 あなたは、宇美町のどのようなところが魅力だと思いますか。(3つまで○印)

1. 自然環境が豊かである	12. 文化活動の環境が整っている
2. 道路・交通の便がよい	13. 歴史的・文化的資源が豊かである
3. 上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が整っている	14. 活力ある産業がある
4. 住みやすい住宅地がある	15. 買物の便がよい
5. 情報通信網が整っている	16. 働く場が整っている
6. 消防・防災・防犯体制が整っている	17. 魅力ある観光資源がある
7. 保健・医療環境が整っている	18. 人情味や地域の連帯感がある
8. 福祉環境が整っている	19. 行政サービスが充実している
9. 子育て環境が整っている	20. 特に魅力を感じない
10. 教育環境が整っている	21. その他
11. スポーツ活動の環境が整っている	(具体的に：)

問4 あなたは、これからも宇美町に住みたいと思いますか。(1つに○印)

1. 住みたい
2. どちらかといえば住みたい
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば住みたくない
5. 住みたくない(できれば町外へ引越したい)

※問4で「4.」または「5.」に○をつけた方にうかがいます。

問4-2 その主な理由は何ですか。(3つまで○印)

1. 自然環境が悪い	12. 文化活動の場が不十分
2. 道路・交通の便が悪い	13. 歴史的・文化的資源が少ない
3. 上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が不十分	14. 活力ある産業が少ない
4. 住みやすい住宅地があまりない	15. 買物の便が悪い
5. 情報通信網が不十分	16. 働く場が不十分
6. 消防・防災・防犯体制が不十分	17. 魅力ある観光資源が少ない
7. 保健・医療環境が不十分	18. 人情味や地域の連帯感があまりない
8. 福祉環境が不十分	19. 行政サービスが不十分
9. 子育て環境が不十分	20. ふるさとが他にある
10. 教育環境が不十分	21. 大都会で生活したい
11. スポーツ活動の環境が不十分	22. その他
	(具体的に：)

まちの現状と今後の取組についておたずねします。

問5 宇美町では、現在、第6次総合計画後期実践計画に基づき、次のような施策を行っています。

それぞれの施策について、以下の内容をおたずねしますので、あなたのお考えに最も近いものを、項目ごとにそれぞれ1つ選んで、数字に○印をつけてください。

- (1) あなたは、この施策にどの程度満足していますか。【満足度】
 (2) あなたは、この施策がどの程度重要だと思えますか。【重要度】

	(1)満足度						(2)重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば不満足である	どちらかといえば不満足である	不満足である		重視している	やや重視している	どちらかといえば不満足である	あまり重視していない	重視していない
(1)満足度、(2)重要度のそれぞれに、○印を1つずつつけてください。											
記入例	1	②	3	4	5	→	①	2	3	4	5
1 共働・地域コミュニティ分野											
①共働の推進											
町民参画の仕組みづくりや町民団体、ボランティア・NPOなどの育成・支援、広報・広聴活動の充実、情報の共有など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②地域コミュニティの活性化											
自治意識の高揚や地域コミュニティの活性化支援、地域コミュニティ施設の充実など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
2 安全安心分野											
①防災対策の充実											
総合的な防災体制の確立や地域での防災力の強化、避難行動要支援者（自ら避難することが困難で、特に支援を要する者）対策の充実、消防団の活性化など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②交通安全の充実											
交通安全意識の高揚や安全な道路環境の確保など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③防犯の充実											
防犯意識の高揚、防犯環境の充実など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
④消費者施策の充実											
消費生活に関する情報の提供や消費生活相談の実施、高齢者へのサポート、消費者教育の推進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

	(1)満足度						(2)重要度				
	満足している	やや満足している	どちらでもない	やや不満である	不満である		重視している	やや重視している	どちらでもない	あまり重視していない	重視していない
3 福祉・保健分野											
①地域福祉の充実											
福祉意識の高揚や社会福祉協議会、関係団体などの活動支援、高齢者や障がいのある人にやさしい環境整備の推進、福祉窓口の充実など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②高齢者福祉の充実											
高齢者支援体制の強化や介護予防の推進、地域包括ケアシステム(住み慣れた地域で暮らし続けられるように、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体で提供)の構築、生きがいづくりと社会参加の促進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③障がいのある人の福祉の充実											
障がいのある人への支援の総合的推進や広報・啓発活動などの推進、就労機会や居住の場の拡大と社会参加の促進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
④町民の健康づくりの推進											
町民主体の健康づくりの推進や予防可能な疾病(生活習慣病など)の発生予防と重症化予防の徹底、母子保健の充実、感染症の予防、救急医療体制の充実など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
4 子育て・教育・文化分野											
①子育て支援の充実											
保育の量的拡大及び質の向上や放課後児童クラブの充実、地域子育て支援事業の充実、子育て世帯に対する経済的支援、子どもの最善の利益を守る環境づくり、子育て支援の人材育成など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②学校教育の充実											
生き抜く力の育成や学校運営への参画促進、教育環境の整備など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③生涯学習の推進											
生涯学習関連施設の充実、生涯学習プログラムの整備と提供、指導者の育成と団体などの活動支援、学習成果の活用など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
④青少年の健全育成											
青少年の体験活動などの充実や家庭・地域・学校と関係機関・団体などが連携した青少年健全育成、国際交流事業の推進、ふるさと・宇美町を愛する心の醸成など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

	(1)満足度						(2)重要度						
	満足している	やや満足している	どちらとも言えない	やや不満足である	不満足である		重視している	やや重視している	どちらとも言えない	あまり重視していない	重視していない		
⑤スポーツ活動の推進													
総合的なスポーツ活動の推進やスポーツを通じた健康づくりの推進、社会体育及び学校施設の有効活用、スポーツ関係団体の支援、スポーツ機会の充実など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
⑥芸術・文化活動の推進													
芸術・文化団体の活動促進や芸術・文化の鑑賞発表機会の充実など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
⑦読書活動の推進													
生涯学習を推進する図書資料の整備、レファレンスサービス(※1)の充実及び情報交流の場の提供、子ども読書活動の推進、読書ボランティアなどと共働した読書活動の推進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
5 産業分野													
①商工業・サービス業の振興													
魅力的な商業活動の促進や既存企業の経営基盤強化の促進、企業誘致の推進、創業支援、特産品開発など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
②農林業の振興													
農業生産基盤の整備や担い手の育成・農地の保全、農業への理解促進及び地産地消の推進、薬用作物栽培による農業所得向上及び地域活性化対策事業の推進、計画的な森林施業の促進、森林への理解促進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
③観光の振興													
観光・交流資源の充実・活用、体験型観光の充実、エコツーリズム(※2)の推進、観光PR活動の推進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
6 都市基盤分野													
①道路網の充実													
幹線道路ネットワークの形成や生活道路の利用環境の維持・向上など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
②交通網の充実													
公共交通ネットワーク(JRや西鉄バス、町内福祉巡回バスなど)の形成など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		

※1 レファレンスサービス：図書館利用者の問合せに応じ、図書館資料(本など)や情報源を回答し、調べ物を手助けするサービス。

※2 エコツーリズム：自然環境や歴史・文化などの地域の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さを理解してもらい、保全につなげること。

	(1)満足度						(2)重要度						
	満足している	やや満足している	どちらでもない	やや不満である	不満である		重視している	やや重視している	どちらでもない	あまり重視していない	重視していない		
③都市機能の立地誘導・集約													
都市機能の立地誘導・集約化や中心市街地の機能充実、住居表示整備事業の実施など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
④上・下水道の整備													
水道施設などの計画的な更新や上・下水道事業の健全運営、下水道整備の推進、上・下水道に対する意識の高揚など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
7 生活環境分野													
①循環型社会形成の推進													
ごみ収集・処理体制の充実やごみ減量化・4R運動の推進、し尿の適正処理、地球温暖化防止の推進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
②自然環境と公園・緑地・水辺の保全・整備													
自然環境の保全や身近な公園・緑地の維持管理、一本松公園（昭和の森）の利活用など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
③生活環境の保全・向上													
環境美化活動の促進や不法投棄の予防、空き家対策の推進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
④文化財の保存と活用													
文化財の保存や文化財の活用など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
8 共生・行財政分野													
①人権尊重の推進													
人権政策の総合的推進、人権教育・啓発推進体制の充実、人権問題に関する相談体制の充実など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
②男女共同参画の推進													
男女共同参画に向けての意識づくり、男女が共に生きる環境づくり、自立した生き方づくりへの支援など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		
③行政経営の推進													
計画的な行政の推進や持続可能な財政基盤の確立、効果的・効率的な財政運営の確保、人材の育成、公共建築物の維持管理・更新・統廃合、広域行政の推進など	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5		

問6 あなたは、今後のまちづくりにおいて、宇美町をどのような特色のあるまちにすべきだと思いますか。(3つまで○印)

1. 町民と行政とが協力・連携してまちづくりを行う <u>共働のまち</u>
2. 災害に強く、犯罪や事故のない <u>安全・安心のまち</u>
3. 人にやさしい保健・医療・福祉の充実した <u>健康・福祉のまち</u>
4. 子育て環境や子どもの教育環境が充実した <u>子育て・教育のまち</u>
5. 生涯学習活動や文化芸術・スポーツ活動が活発な <u>生涯学習・文化のまち</u>
6. 歴史的遺産を大切にし、まちづくりに生かす <u>歴史のまち</u>
7. 農業を中心として発展する <u>農業のまち</u>
8. 商店街の振興や地場産業の育成、企業誘致による <u>商工業のまち</u>
9. 地域資源を活用し、観光や交流事業を進める <u>観光・交流のまち</u>
10. 自然の保護や環境の保全・創造を優先する <u>環境保全のまち</u>
11. 快適な居住環境の整備を優先する <u>快適住環境のまち</u>
12. 先端技術を導入し、様々な仕組みを変革していく <u>デジタル化推進のまち</u>
13. その他(具体的に:)

あなたの日頃の行動やお考えなどについておたずねします。

問7 あなたの日頃の行動やお考えなどについて、それぞれの項目ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

①あなたは、宇美町は安全に暮らせるまちだと思いますか。(1つに○印)

1. そう思う	4. どちらかといえばそう思わない
2. どちらかといえばそう思う	5. 思わない
3. どちらともいえない	

②あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。(1つに○印)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

③あなたは、あなたは、宇美町のハザードマップを見て自宅等の確認をしたことがありますか。(1つに○印)

1. ある	2. ない
-------	-------

④あなたは、日頃、健康増進のための取組(食生活の改善や運動など)をしていますか。(1つに○印)

1. している	2. していない
---------	----------

⑤あなたは、宇美町が「高血圧ゼロのまち」に取り組んでいることを知っていますか。(1つに○印)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

⑥あなたは、宇美町は安心して子どもを産み育てることができるまちだと思えますか。(1つに○印)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 4. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. 思わない |
| 3. どちらともいえない | |

⑦あなたは、この1年間に、生涯学習活動(趣味や文化・スポーツ活動等)をしましたか。(1つに○印)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日した | 4. 年に数回程度した |
| 2. 週に数回程度した | 5. ほとんどしなかった |
| 3. 月に数回程度した | |

⑧あなたは、町内にある歴史文化遺産(遺跡・古墳・城跡など)を誇りに思えますか。(1つに○印)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 思う | 4. どちらかといえば思わない |
| 2. どちらかといえば思う | 5. 思わない |

⑨あなたは、町内にある大野城跡が日本遺産「西の都」の構成文化財として認定されていることを知っていますか。(1つに○印)

- | | |
|------------|------------|
| 1. よく知っている | 3. あまり知らない |
| 2. 知っている | 4. 知らない |

⑩あなたは、令和2年12月から宇美町電子図書館を利用できることを知っていますか。(1つに○印)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

⑪あなたは、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。(1つに○印)

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

⑫あなたは、ごみの減量化のため、4R運動(リフューズ:発生回避、リデュース:排出抑制、リユース:再使用、リサイクル:再資源化)をしていますか。(1つに○印)

- | | |
|---------|----------|
| 1. している | 2. していない |
|---------|----------|

⑬あなたは、宇美町では、自然と共生する魅力あるまちづくりが行われていると思えますか。(1つに○印)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 4. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. 思わない |
| 3. どちらともいえない | |

⑭あなたが町の情報を得るために使っている手段は次のどれですか。(使っているものすべてに○印)

1. 広報うみ	4. SNS (フェイスブック・ツイッターなど)
2. 町ホームページ	5. その他(具体的に:)
3. 町からの回覧板	

⑮あなたが今後の宇美町職員に特に求めるものは何ですか (3つまで○印)

1. 親切かつ丁寧な、相手の立場に立った対応
2. 分かりやすく説明する能力
3. 社会の変化に的確に対応できる柔軟性
4. 町民の立場に立った臨機応変な対応
5. 専門的知識や事務処理能力
6. 町民と協力しながら課題に対応しようとする共働意識
7. 町民のために、宇美町のために働くという使命感
8. コスト意識を持った効率的な業務の遂行
9. その他(具体的に:)

⑯あなたは、「公共施設の更新問題(老朽化問題)(※3)」を知っていますか。(1つに○印)

1. 知っている	3. 知らない
2. なんとなく聞いたことがある	

※3 公共施設の更新問題(老朽化問題):全国的に高度成長期に建設された公共施設が耐用年数を迎える中で、自治体がこれらを保有・維持し続けることが財政的に困難であり、荒廃が懸念されていること。

⑰あなたは、議会審議の様子が動画で配信される場合、スマートフォン・パソコンで見たいと思いますか。(1つに○印)

1. 見たい	3. わからない
2. 見ない	4. スマートフォンなどの機器を使わない

地域コミュニティ・共働についておたずねします。

※「地域コミュニティ」とは:地域住民が生活している場所、すなわち消費、生産、労働、教育、衛生・医療、遊び、スポーツ、芸能、祭りに関わり合いながら、住民相互の交流が行われている地域社会またはその住民の集団を言います。

問8 あなたの現在の地域コミュニティ活動・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。(1つに○印)

1. 現在参加しており、今後も参加したい	→ 問8-2へお進みください。
2. 現在参加していないが、今後は参加したい	
3. 現在参加しているが、今後は参加するつもりはない	→ 問8-3へお進みください。
4. 現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない	

※問8で「1.」または「2.」に○をつけた方にうかがいます。

問8-2 あなたは、今後（今後とも）どのような地域コミュニティ活動・ボランティア活動に参加したいと思いますか。（3つまで○印）

1. 小学校区コミュニティ運営協議会、自治会活動	10. 子育て支援に関する活動
2. 農協や商工会などを通じた活動	11. 高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動
3. 老人クラブや婦人会などを通じた活動	12. 教育・文化・スポーツの指導・運営に関する活動
4. 自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動	13. 青少年の健全育成に関する活動
5. 緑化や花づくりに関する活動	14. 文化財や伝統芸能の保存に関する活動
6. 自主防災や災害援助に関する活動	15. 国内外との交流に関する活動
7. 交通安全に関する活動	16. 名所案内など観光に関する活動
8. パトロールなど防犯に関する活動	17. 募金や寄付、バザー等に関する活動
9. 通院介助や健康管理の指導など保健・医療に関する活動	18. 地域づくりやまちおこしに関する活動
	19. その他（具体的に：)

※問8で「3.」または「4.」に○をつけた方にうかがいます。

問8-3 今後（今後とも）参加しない理由は何ですか。（○印はいくつでも）

1. 地域コミュニティ活動・ボランティア活動に興味がない
2. 仕事で時間がとれない
3. 子育てで時間がとれない
4. 他にすることがある
5. その他（具体的に：)

問9 宇美町では、町民の皆様と行政が、お互いの立場を尊重しながら協力・連携する関係のみならず、共働のパートナーという対等な関係で、より豊かなまちづくりを実現するために取り組んでいます。

この「共働のまちづくり」を進めるために必要なことは、どのようなことだと思いますか。（3つまで○印）

1. 行政情報の提供・公開のための広報活動の充実
2. 町民の意見や要望を聞くための広聴活動の充実
3. 町民への「共働」に関する意識啓発の推進
4. 行政内部の「共働」に関する意識改革の推進
5. 町民へのまちづくりに関する学習機会の提供
6. 共働のまちづくりを進めるためのルールや指針の充実と町民への周知
7. 各種計画策定の際の委員の一般公募、パブリックコメント（ホームページ等を通じた町民意見の募集）の充実
8. 公共施設の整備・管理や公共サービスの提供への町民・民間の参画・共働の促進
9. まちおこし等を行う町民団体・NPO等の育成・支援
10. その他（具体的に：)

